

SYLLABUS
シラバス
令和7年度

理学療法士科

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリア教育 I		講義・演習	前川 加奈・堂脇 ゆかり	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
この講義では主に知識・技能・態度の3分野について学ぶことを目的とする。知識では充実した学生生活を送るための勉強方法を修得する。技能では理学療法士の仕事について理解しコミュニケーションの大切さを知る。態度では目的意識を持ち各自のキャリア形成支援として学内での生活や実習での行動・心構えについて学ぶことを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 理学療法士・社会人になるために効率的な勉強が実施できるようになる。 2. 理学療法士の役割・仕事を具体的に述べることができる。 3. これから始まる実習において適切なマナーを説明することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	これからのビジョン①			
2	理学療法室の機器①			
3	理学療法室の機器②、スタディスキル			
4	スタディスキル			
5	先輩からのメッセージ			
6	社会人基礎力			
7	理学療法士の資質			
8	理学療法士科が働く施設①			
9	理学療法士科が働く施設②			
10	実習のマナー①			
11	実習のマナー②			
12	実習のマナー③			
13	実習のマナー④			
14	実習のマナー⑤			
15	これからのビジョン② まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	70%	数回提出するレポート類や発表。		
小テスト				
平常点	30%	講義に取り組む姿勢・態度を総合的に評価する。		
その他				
自由記載	提出物は形式・期限を守ること。守れていない場合は減点する。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
理学療法概論テキスト 第4版	監修 細田多穂	南江堂		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
コミュニケーション論		講義・演習	稲垣 佑	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>対人援助職は、様々な背景をもつ他者と関わり、人間関係を適切に構築する必要がある。そのためには人の多様さを理解し、相手の背景やその場の状況に応じて適切なコミュニケーションを行うことが重要になる。本科目では、コミュニケーションに関する基本的な理論の習得を目指すとともに、授業内での体験的な活動を通して、それらの理論を実際に活用して表現できるようになることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>①コミュニケーションを行うことの意義、重要性について説明できる。 ②コミュニケーションの基本的な理論について説明できる。 ③コミュニケーションの基本的な理論に基づき表現することができる。 ④対人援助職におけるコミュニケーションの特徴と具体的な技法について説明することができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション、対人援助職におけるコミュニケーション			
2	聞き上手になる技術（1）			
3	聞き上手になる技術（2）			
4	伝え上手になる技術（1）			
5	伝え上手になる技術（2）			
6	共感上手になる技術（1）			
7	共感上手になる技術（2）			
8	コミュニケーションの仕組み			
9	自分自身とのコミュニケーション			
10	医療分野におけるコミュニケーション（1）			
11	医療分野におけるコミュニケーション（2）			
12	状況に即したコミュニケーション法の選択（1）			
13	状況に即したコミュニケーション法の選択（2）			
14	相談面接場面でのコミュニケーション			
15	振り返り、まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	40%	授業中に実施する。		
小テスト	30%	コミュニケーションに関する基本的知識の習得を評価基準とする。		
平常点	30%	授業中の取り組みをもとに評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
こころが動く医療コミュニケーション読本	中島俊	医学書院		
自由記載	講義資料を配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
対人援助の現場で使える 聴く・伝える・共感する技術 便利帖	大谷佳子	翔泳社		
対人援助の作法 誰かの力になりたいあなたに必要なコミュニケーションスキル	竹田伸也	中央法規出版		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
リハビリテーション概論		講義	坂東 恵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
リハビリテーションに関わる職種である理学療法士として、保健医療福祉分野で活躍するためにリハビリテーションの理念や分類について学ぶ。チーム医療の一員として、他職種から仕事の役割について講義してもらい理解を深める。また、障がい者や患者様の障害・生活機能について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. リハビリテーションの理念について説明できる。 2. リハビリテーションの分類について説明できる。 3. 他職種について役割を説明できる。 4. チーム医療について理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	リハビリテーションの理念			
2	ノーマライゼーション・IL運動、健康と障害			
3	自立とは、健康とは、QOLとは			
4	障害者とは			
5	ICIDH、ICF			
6	リハビリテーションの分類について（含 自立支援・就労支援）			
7	医学的リハビリテーションの流れ・地域包括ケアシステムについて			
8	専門職、チーム医療			
9	多職種連携の理解			
10	作業療法・作業療法士とは			
11	言語聴覚療法・言語聴覚士とは			
12	障害のある方を招いて講演			
13	障害のある方を招いて講演			
14	障害のある方を招いて講演について			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	50%	数回提出する課題やプリント		
小テスト	40%	講義時に数回行う		
平常点	10%	講義に取り組む姿勢・態度を総合的に判断する		
その他				
自由記載	提出物は形式・期限を守れていない場合は減点する。小テストは公欠、病欠のみ再テストする。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
理学療法概論テキスト 第4版	監修 細田多穂		南江堂	
自由記載				
備考				
作業療法・言語聴覚療法については作業療法士、言語聴覚士の先生に講義していただく。 障害のある方から講演していただく。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
医学英語		講義	野口 扶美江	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
リハビリテーション英語の基礎的事項を学習しながら、医学英語の必須語彙・語句を習得する。英文を音読し、辞書を活用して訳出する。				
授業の到達目標				
リハビリテーションのための基本的な医学関連英語を理解し必須語彙を習得する。臨床現場における医学英語を理解できるようにする。医学英語に興味・関心をもち学習を継続する。英語論文も辞書があれば自力で読めるようにする。				
授業計画				
回	内容			
1	What is Health?(p.2)/Exercise for Everyone(p.4)			
2	Overview of the Body(p.6)/Exercise Programs(p.8)			
3	History of Rehabilitation(p.12)/Physical Therapy and Physical Therapists(p.16)			
4	Fundamentals of the Human Body for Rehabilitation(p.22)			
5	The Skeletal System(p.36)			
6	The Muscular System(p.45)			
7	The Nervous System(p.52)			
8	Bone Fractures(p.62)			
9	Chronic Low Back Pain(p.68)			
10	Arthritis(p.75)			
11	Achilles Tendon Rupture(p.83)/Dislocated Shoulder(p.85)			
12	Sprained Ankle(p.86)			
13	Spinal Cord Injury(p.94)			
14	Parkinson's Disease(p.99)			
15	Stroke(p.104)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	単語を覚え、英文を正確に読み理解できる事を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト	40%	随時の単語テスト		
平常点	10%	授業態度。特に辞書を引き自力で読み解こうとする姿勢を評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
リハビリテーションの基礎英語	清水雅子	メジカルビュー社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
必ず英和辞書を持参する事（紙でも電子辞書でもOK）				

科目名		授業形態	担当教員名	
運動学 I		講義	坂東 恵美子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>運動学は身体構造や運動力学などを包括した学問であり、理学療法の基礎となる。その理解のためには、物理学の意味での運動学と、骨・関節の運動学が必要となる。運動学 I では運動学 II・III での学修も視野に入れて、力学的な分野における運動学を理解すること、また、体幹の骨運動学、関節運動学など、生体での運動学を理解すること、そして姿勢と姿勢制御について理解することを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎知識を理解する。生体力学における運動学の基礎を説明できる。 ・体幹の各関節の構造・関節運動を理解し、そのメカニズムについて説明できる。 ・姿勢と姿勢制御の定義を理解し、基本的立位姿勢の理想的アライメントや立位姿勢保持に活動する筋、姿勢制御の神経学的機序の概要を説明できる。 				
授業計画				
回	内容			
1	運動学の概要、運動の面と軸、関節運動と関節包内運動			
2	骨格筋の機能			
3	生体力学の基礎① (力の合成・分解)			
4	生体力学の基礎② (身体の中でのてこ①)			
5	生体力学の基礎③ (身体の中でのてこ②)			
6	生体力学の基礎④ (滑車、運動の法則)			
7	体幹の運動学総論、脊柱の関節構造と運動			
8	頸椎と運動①			
9	頸椎と運動②			
10	胸部の運動			
11	胸腰部の運動①			
12	胸腰部の運動②			
13	姿勢①			
14	姿勢②			
15	姿勢③			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
基礎運動学 第7版	中村隆一 他	医歯薬出版会社		
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版	Donald A. neumann 他	医歯薬出版会社		
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第4版	坂井建雄・松村譲児 監訳	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
身体運動の理解につなげる物理学	江原義弘 他	南江堂		
15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学	石川朗 他	中山書店		
自由記載				
備考				
<ul style="list-style-type: none"> ・4名程度でグループをつくり、骨標本などをグループで確認しながら、講義を行います。 ・プリント配布、骨標本や骨模型など準備物も多いためクラスで協力して準備に臨んでください。 				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動学Ⅱ		講義	谷 和真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>運動学は身体構造や運動力学などを包括した学問であり、理学療法の基礎となる。その理解の為には、物理学の意味での運動学と、骨・関節の運動学が必要になる。運動学Ⅱでは、解剖学で学修する骨・関節・筋学および運動学Ⅰで学修する生体力学の基礎を基に、上肢の骨運動学、関節運動学などを学修し生体での運動学を理解する。</p>				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・上肢の各関節の構造・関節運動を理解する。 ・上肢の各関節の運動と靭帯および筋の作用との関係性を理解する。 ・上肢の運動学と運動力学の基礎を理解し、身体の動きについて理解する。 				
授業計画				
回	内容			
1	肩複合体①			
2	肩複合体②			
3	肩複合体③			
4	肩複合体④			
5	肩複合体⑤			
6	肩複合体⑥			
7	肘関節・前腕複合体①			
8	肘関節・前腕複合体②			
9	肘関節・前腕複合体③			
10	肘関節・前腕複合体④			
11	手関節 手部①			
12	手関節 手部②			
13	手関節 手部③			
14	手関節 手部④			
15	手関節 手部⑤			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載	授業の中で一度小テストを実施します。範囲は授業の中で説明します。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
基礎運動学 第7版	中村隆一 他		医歯薬出版株式会社	
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版	Donald A. neumann 他		医歯薬出版株式会社	
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第4版	坂井建雄・松村譲児 監訳		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準整形外科学 第15版	井樋栄二・津村弘 他		医学書院	
PT・OTのための運動学テキスト 第1版補訂版 基礎・実習・臨床	小柳磨毅 他		金原出版株式会社	
15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学	石川朗 他		中山書店	
自由記載				
<ul style="list-style-type: none"> ・準備物は骨標本、骨模型を使用し班となって受講します。プリント配布もあるため互いに協力し準備に臨むこと。 ・解剖学演習Ⅰ、Ⅱでの上肢分野の知識を使用して学びますので、各自、十分復習した上で受講すること。 ・状況によって進度など変更する場合があります。 				

科目名		授業形態	担当教員名	
運動学Ⅲ		講義	小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>運動学は身体構造や運動力学などを包括した学問であり、その理解の為には、物理学の意味での運動学と、骨・関節の運動学が必要になる。運動学Ⅲでは、解剖学で学修する骨・関節・筋学および運動学Ⅰで学修する生体力学の基礎を基に、下肢分野の骨運動学、関節運動学など生体における運動学を学ぶ。また、併せて動作（歩行）との繋がりについても理解を深めていくことを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>下肢の関節構造とそれに関わる関節運動・力学の単語や用語の意味を理解できる。 下肢の動きと制御に関与する構造物の把握とそのメカニズムについて自らの身体を用いて説明できる。 歩行の概要ならびに構成要素を理解し、歩行に必要な運動と下肢関節の関節運動・筋活動との関連性を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	下肢の運動学総論、骨盤帯・股関節の構造			
2	股関節の運動①			
3	股関節の運動②			
4	骨盤帯と股関節の運動			
5	膝関節の構造①			
6	膝関節の構造②			
7	膝関節の運動①			
8	膝関節の運動②			
9	股と膝関節の運動			
10	足関節の構造			
11	足関節の運動①			
12	足関節の運動②			
13	膝と足関節の運動			
14	歩行の構成要素と運動学①			
15	歩行の構成要素と運動学②			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載	授業の中で小テストを行います。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
基礎運動学 第7版	中村隆一 他	医歯薬出版株式会社		
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版	Donald A. neumann 他	医歯薬出版株式会社		
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第4版	坂井建雄・松村譲児 監訳	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床	小柳磨穀 他	金原出版株式会社		
15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学	石川朗 他	中山書店		
自由記載				
備考				
<ul style="list-style-type: none"> ・プリント配布、骨標本や骨模型など準備物も多いため、クラスで協力して準備に臨んでください。 ・状況によって進捗など変更する場合があります。 				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動生理学演習		演習・講義	田中 靖人・小林 正明・喜田 直樹	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>理学療法において重要な人体の機能について演習を行う。呼吸・循環等の反応および筋収縮、姿勢制御機構等これらの反応を演習を通して確認する。 また、本科目の進行における、演習方法、結果の処理、考察の仕方について習熟し、レポートを作成するまでを一貫して行う。</p>				
授業の到達目標				
<p>様々な生理的刺激に対し、ヒトがどのような反応を示すのかを演習によって明らかにし、その結果に対して、エビデンスに基づいた自分の考えをレポートとしてまとめることを目標とする。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	演習オリエンテーション 1			
2	演習オリエンテーション 2			
3	演習1 筋刺激時に起こる生体信号の抽出 1（田中）			
4	演習1 筋刺激時に起こる生体信号の抽出 2（田中）			
5	レポート作成のためのデータ処理・文献講読 1			
6	演習1 まとめ（田中）			
7	演習2 有酸素運動時の循環器系の反応 1（小林）			
8	演習2 有酸素運動時の循環器系の反応 2（小林）			
9	レポート作成のためのデータ処理・文献講読 2			
10	演習2 まとめ（小林）			
11	演習3 立位における重心動揺の理解 1（喜田）			
12	演習3 立位における重心動揺の理解 2（喜田）			
13	レポート作成のためのデータ処理・文献講読 3			
14	演習3 まとめ（喜田）			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	3分野のレポート得点を合算して評価する。提出が遅れた場合は減点することがある。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載	レポート作成のために必要な文献については、担当教員から指示することがある。			
備考				
<p>演習1から3をグループでローテーションしていく。 演習データが収集できないと、レポートが書けなくなるがあるので、欠席しないこと。</p>				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学 I		講義	荒川 高光	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
60 時間 (2 単位)		30 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
解剖学では、人体の構造を学ぶ。理学療法士を目指すみなさんにとって解剖学は、今後の学習の基盤となる学問である。理学療法士にとって重要な骨、関節、筋、神経系はもちろん、他の器官もまんべんなく、マクロレベルからミクロレベルに至るまで全てを網羅した知識としなければ患者を全人間的に把握することは不可能である。全身の解剖学を知り、理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
全身の人体の解剖学を理解し、説明ができることができる。解剖学が今後の理学療法にどのようにつながっていくのかを考えながら応用することができる。				
授業計画				
回	内容		回	内容
1	人体の概要, 身体の区分, 解剖学的表現法と運動の表現		16	消化器系: 肝臓・胆嚢・膵臓
2	細胞		17	循環器系総論・血管の構造
3	組織学総論、上皮組織		18	循環器系: 心臓
4	支持組織		19	循環器系: 心臓II
5	骨学総論		20	循環器系: 動脈
6	関節・靭帯学総論		21	循環器系: 動脈II
7	骨学・関節学: 頭部・体幹		22	循環器系: 静脈
8	骨学・関節学: 上肢		23	循環器系: リンパ
9	骨学・関節学: 下肢		24	呼吸器系: 上気道
10	筋学総論・筋組織		25	呼吸器系: 下気道
11	筋学: 体幹・上肢帯		26	内分泌器
12	筋学: 自由上肢		27	泌尿器
13	筋学: 下肢帯・自由下肢		28	男性生殖器
14	消化器系: 口・咽頭・味覚器・食道		29	女性生殖器
15	消化器系: 胃・小腸・大腸		30	神経系総論・神経組織
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		適宜実施し、総合評価に加味する。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載	授業資料を製本したものを使用する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学Ⅱ		講義	荒川 高光	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
解剖学では、人体の構造を学ぶ。理学療法士を目指すみなさんにとって解剖学は、今後の学習の基盤となる学問である。理学療法士にとって重要な骨、関節、筋、神経系はもちろん、他の器官もまんべんなく、マクロレベルからミクロレベルに至るまで全てを網羅した知識としなければ患者を全人間的に把握することは不可能である。全身の解剖学を知り、理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
全身の人体の解剖学を理解し、説明ができることができる。解剖学が今後の理学療法学にどのようにつながっていくのかを考えながら応用することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	神経系総論・神経組織、脊髄			
2	脳幹、小脳・間脳			
3	終脳			
4	髄膜と脳室			
5	脳の血管			
6	下行性伝導路			
7	上行性伝導路			
8	末梢神経系：脳神経（総論）			
9	末梢神経系：脳神経（各論）			
10	末梢神経系：脊髄神経（総論）			
11	脊髄神経：上半身			
12	脊髄神経：下半身			
13	末梢神経系：自律神経系			
14	視覚器			
15	聴覚器・平衡器			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		適宜実施し、総合評価に加味する		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	授業資料を製本したものを使用する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学演習 I		演習・講義	小林 正明	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
ヒトの四肢、体幹の骨格・関節に関する基礎知識を修得することを目的とする。解剖学演習Ⅱに向けて、骨・関節を総論的に理解する。				
授業の到達目標				
個々の骨の名称や部位名を正確に列挙し、説明できる。各関節ごとの運動方向や名称を正確に列挙し、説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	総論 1 人体の区分、関節の運動方向の名称、運動面と軸			
2	総論 2 骨・関節の形状			
3	各論 上肢 骨・関節 1			
4	各論 上肢 骨・関節 2			
5	各論 下肢 骨・関節 1			
6	各論 下肢 骨・関節 2			
7	各論 体幹 骨・関節 1			
8	各論 体幹 骨・関節 2			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%			
レポート・課題	40%	各講義の理解の習熟度を知るために課題を出す。その提出と内容を評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第4版	坂井健雄・松村讓兒 監修		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢/ 同 下肢・体幹	林典雄 著		メジカルビュー社	
イラスト解剖学	松村讓兒		中外医学社	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学演習Ⅱ		演習・講義	前川 加奈・谷 和真・小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
四肢、体幹の運動器系の基礎知識の修得を目的とする。基礎知識の範囲は、①筋の名称と機能 ②神経の名称と機能、支配領域 ③主要な血管の名称と機能 ④各関節の運動方向と筋、神経の作用 である。				
授業の到達目標				
解剖学演習Ⅰの知識を使用し、①人体の主要な骨格筋の構造（起始・停止・走行・神経支配など）を知り、その作用を説明することができる。②脊髄神経の名称と機能、支配領域を列挙することができる。③人体の主要な血管の名称と機能を列挙することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	総論 筋・神経・血管(担当：谷)			
2	各論 下肢(担当：小堀)	1) 筋①		
3	各論 下肢(担当：小堀)	2) 筋②		
4	各論 下肢(担当：小堀)	3) 筋③		
5	各論 下肢(担当：小堀)	4) 筋④		
6	各論 下肢(担当：小堀)	5) 筋⑤ 神経・脈管		
7	各論 上肢(担当：谷)	1) 筋①		
8	各論 上肢(担当：谷)	2) 筋②		
9	各論 上肢(担当：谷)	3) 筋③		
10	各論 上肢(担当：谷)	4) 筋④		
11	各論 上肢(担当：谷)	5) 筋⑤ 神経・脈管		
12	各論 体幹(担当：前川)	1) 筋①		
13	各論 体幹(担当：前川)	2) 筋②		
14	各論 体幹(担当：前川)	3) 筋③ 神経・脈管		
15	各論 体幹(担当：前川)	4) 筋④ 神経・脈管 ・ まとめ		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	85%	上肢30%、下肢30%、体幹25%		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	15%	課題や小テストなど 上肢5%、下肢5%、体幹5%		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第4版	坂井健雄・松村譲児 監修		医学書院	
プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部／神経解剖 第3版	坂井健雄・河田光博 監修		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
自己学習を積み重ね、知識の修得に努めること。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学演習Ⅲ		演習・講義	堂脇 ゆかり	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な神経の構造を理解する。 ・ 中枢および末梢の神経の構成とつながりを理解する。 ・ 各器官の特徴および連絡、神経伝導路を知り、動作と神経活動の関連を理解する。 				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 終脳の血管・局在について述べるができる。脳室の解剖・機能について説明することができる。 ・ 脳幹・間脳の機能について述べ、伝導路や脳神経と関係づけて説明できる。 ・ 反射・自律神経系の解剖・機能について説明できる。 ・ 小脳・大脳基底核の解剖・機能について説明できる。 				
授業計画				
回	内容			
1	神経系の基本構造			
2	髄膜・脳室・頭蓋骨・大脳の区分（葉・回・溝）・灰白質・白質			
3	大脳の機能局在・高次脳機能			
4	大脳辺縁系・脳血管			
5	間脳			
6	脳幹			
7	小脳1			
8	小脳2 大脳基底核1			
9	大脳基底核2			
10	脊髄・伝導路			
11	伝導路			
12	反射・自律神経			
13	脳神経1			
14	脳神経2			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
病気がみえるVol.7 脳・神経	尾上尚志 他監		MEDIC MEDIA	
プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖	坂井建雄 他監		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
カラー図解 人体の正常構造と機能Ⅷ 神経系 (1)	河田光博・稲瀬正彦		日本医事新報社	
カラー図解 人体の正常構造と機能Ⅸ 神経系 (2)	河田光博・稲瀬正彦		日本医事新報社	
イラスト解剖学	松村譲児		中外医学社	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎理学療法学演習 I		演習	堂脇 ゆかり	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
1. 見学実習で学んだことを整理し発表する 2. 理学療法評価過程の情報収集と医療面接において種々の問診方法を修得する 3. 運動器 (筋) の復習として小テストを実施する				
授業の到達目標				
1. 見学実習で学んだことを整理し発表することができる 2. 情報収集の目的・重要性を理解する 3. 種々の問診方法について説明できる 4. 対象者に応じた問診を適切に実施できる 5. 筋の起始・停止・神経についての知識を再獲得する				
授業計画				
回	内容			
1	運動器復習①			
2	見学実習後グループディスカッション 運動器復習②			
3	グループ発表レジュメ作成			
4	グループ発表 運動器復習③			
5	運動器復習④			
6	運動器復習⑤			
7	運動器小テスト 情報収集①			
8	情報収集②			
9	情報収集③			
10	情報収集④			
11	コミュニケーション技法 演習			
12	医療面接 演習			
13	医療面接 演習テスト			
14	見学体験実習前演習			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	課題・発表など		
小テスト	40%			
平常点	10%	授業態度		
その他	20%	医療面接演習テスト		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
理学療法評価学 (第4版)			医学書院	
自由記載				
備考				
運動器復習に関しては前期解剖学演習 I・II の資料を参考とする。				

科目名		授業形態	担当教員名	
公衆衛生学		講義・演習	小野 一男・井村 聡子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
公衆衛生学の目的は、全ての人を対象とした健康の保持、増進、寿命の延伸、疾病の予防である。本科目では、環境汚染や社会・疾病構造の変化および医療の現状と課題を解説し、健康と生活の質(QOL)およびプライマリーヘルスケア(PhC)やヘルスプロモーション(HP)の概念を学ぶとともに、地域社会住民や施設集団におけるセルフケアの重要性と医療従事者の果たす役割を考察する。また世界観に基づく比較論的アプローチで国際医療すなわちGlobal Healthを学ぶ。一方、生活環境の進展に伴う肥満や生活習慣病など健康に関わる課題について、科学的な分析と解析を行い、社会集団における健康を科学的に理解し、疾病予防を図る。				
授業の到達目標				
現在の公衆衛生の問題について、理解し、自身の意見を述べるができるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	健康の概念と公衆衛生学			
2	人口統計			
3	保健統計			
4	地域保健			
5	疫学			
6	母子保健			
7	学校保健			
8	成人保健			
9	高齢者保健			
10	感染症・食品衛生			
11	国民栄養			
12	環境保健			
13	精神保健・産業保健			
14	社会保障と社会福祉			
15	国際保健			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	筆記試験		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	30%			
自由記載		評価は筆記試験(70%)およびその他【①発表、②課題提出、③受講態度】(30%)により評価を行う。 筆記試験は得られた得点で評価する。 その他は①発表は授業中に実施する発表の内容、②課題提出はレポートなどの提出物の内容、③受講態度は、私語やスマートホンなどの機器類の使用に関し特に悪いと判断した場合に評価を下げる。		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
よくわかる専門基礎講座公衆衛生	松本秀明	金原出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
社会福祉学		講義	棚野 恭範	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
福祉・医療・保健の連携の重要性の中で、「ノーマライゼーション・リハビリテーション」理念を基礎に、知識としての「社会福祉学」を単に制度・サービスの紹介・説明にとどまらず、事例を採り入れ、できるだけ身近なものとする。社会福祉関連法規、制度について理解を深め、援助者としての援助観・援助方法も併せて学習することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 社会福祉制度の歴史と考え方を説明できる。 2. 社会福祉制度の体系と意義を説明できる。 3. 障がい者の自立を支える制度の内容を説明できる。 4. 介護保険制度について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	総論Ⅰ 社会福祉学を学ぶ意味、社会福祉の歩み			
2	総論Ⅱ 社会福祉関連法と施設・機関・福祉専門職・キーワード			
3	地域福祉Ⅰ 地域をとりまく課題、地域福祉とは			
4	地域福祉Ⅱ ボランティア活動、阪神淡路大震災と災害ボランティア			
5	グループワークⅠ 社会福祉を考える			
6	社会保障制度Ⅰ 社会保障制度の現状と課題、生活困窮			
7	社会保障制度Ⅱ 生活保護制度、課題解決と法律・制度			
8	子ども家庭福祉Ⅰ 子ども家庭福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
9	子ども家庭福祉Ⅱ 子どもをとりまく現状と課題、ヤングケアラーとは			
10	障がい者福祉Ⅰ 障がい者福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
11	障がい者福祉Ⅱ 障がい者をとりまく現状と課題			
12	高齢者福祉Ⅰ 高齢社会の現状と課題			
13	高齢者福祉Ⅱ 要援護高齢者と介護問題、地域包括ケアシステム、介護保険制度			
14	グループワークⅡ 福祉課題の検討			
15	社会福祉学まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	社会福祉全般にわたる理解内容を評価基準とする		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
よくわかる社会福祉 第11版	山縣文治・岡田忠克 編		ミネルヴァ書房	
自由記載	レジュメ・講義 (参考) 資料を配付する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
情報処理演習		演習	田中 靖人	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
現代社会において高度情報化が進み、情報や情報技術を適切に取り扱うことが、医療現場において実習生・社会人の基本技能として求められるようになってきている。情報処理演習では、学生一人一人が本学に設置されている情報機器等を活用し、安全かつ倫理的に情報を扱うことができ、学内生活・臨床実習のみならず、社会に出てからも情報化社会で活躍できるような基礎知識と技能を身に付けることを目的としている。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft officeを用いて学校・社会生活に必要な定型書式の作成・編集方法が理解できること。 ・Microsoft officeを用いて記録物作成に必要な図表の作成・挿入、計算式を活用したデータ処理が理解できること。 ・Microsoft officeを用いてプレゼンテーションに必要な資料の作成方法、プレゼンテーション技法が理解できること。 ・インターネット環境における情報収集の行い方・情報管理の基本を理解できること。 				
授業計画				
回	内容			
1	パソコンの基礎・Wordの使い方① 文字入力・変換の基礎・方法			
2	Wordの使い方② 文書作成の基礎・方法			
3	Power Pointの使い方① スライド作成の基礎・方法			
4	Power Pointの使い方② プレゼンテーション使用の基礎・方法			
5	Excelの使い方① 列・行使用の基礎・方法			
6	Excelの使い方② 計算式の使用法、グラフ作成の基礎・方法			
7	図表の作成・編集・挿入 (Word・Excel・Power Point)			
8	インターネットを利用した情報収集、演習 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	70%	Word・Excelを用いたレポート。		
小テスト				
平常点				
その他	30%	Power Pointを用いたプレゼンテーション。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
今すぐ使えるかんたんWord&Excel&Power Point (Office2016対応版)	技術評論社編集部 他	技術評論社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
指定教科書の第1章「Word・Excel・Power Pointの基本操作」P18～40を第1回目の講義までに読み、実践できるようにしておいて下さい。				

科目名		授業形態	担当教員名	
人間発達学		講義・演習	酒巻 直美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
人間は生涯にわたり心身の構造や機能が変化していくものであり、人間発達学ではその変化を広く発達と捉えている。それぞれの発達期においてどのような発達過程にあるのかを学習する。特に理学療法に必要な基礎知識として、正常運動発達について深く理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 胎生期・小児期の成長、発達全般を説明できる。2. 出生から歩行獲得までの運動発達の質的变化を理解できる。3. 運動発達のマイルストーンを説明できる。4. 胎生期から老年期までの変化を発達と捉えることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	人間発達学総論			
2	胎生期の発達			
3	出生・新生児期			
4	小児期の身体的成長と成熟			
5	正常運動発達総論 発達評価			
6	正常運動発達各論(1) 姿勢反射			
7	正常運動発達各論(2) 背臥位の発達			
8	正常運動発達各論(3) 腹臥位の発達			
9	正常運動発達各論(4) 座位の発達			
10	正常運動発達各論(5) 立位・歩行の発達			
11	正常運動発達各論(6) 演習			
12	正常発達：微細運動・目と手の協調性			
13	その他の分野の発達			
14	小児期以降の発達(1)			
15	小児期以降の発達(2) まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	10%	課題は内容と提出状況を評価する。形式や提出期限を守らない場合は減点する。		
小テスト	15%			
平常点	5%	授業に取り組む姿勢・態度を評価する(居眠り・忘れ物を含む)。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	随時資料を配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学【専門基礎分野】人間発達学 第3版	加藤寿宏ら 編集		医学書院	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生理学 I		講義	大谷 秀憲	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
本講義では、生体の生命現象の機序について器官系別および複数の器官系の統合された機能としての解析と、生体恒常性 (ホメオスタシス) の維持に対する身体全体としての対応という観点から解説を行っていく。				
授業の到達目標				
到達目標 1 : ヒトの生理機能について理解する。 到達目標 2 : ヒトの身体は様々な器官系の統合により調節されていることを理解する。 到達目標 3 : 将来医療従事者として必要とされる基礎知識を習得する。				
授業計画				
回	内容			
1	前期ガイダンス, 細胞の構造と機能			
2	体液の区分と組成			
3	膜輸送, 自律神経系			
4	血液			
5	内分泌①			
6	内分泌②			
7	心臓			
8	循環			
9	リンパ・脳脊髄液循環			
10	呼吸			
11	代謝			
12	体温調節			
13	腎機能			
14	酸塩基平衡			
15	前期まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
生理学テキスト 第9版	大地陸男	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生理学Ⅱ		講義	大谷 秀憲	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本講義では、生体の生命現象の機序について器官系別および複数の器官系の統合された機能としての解析と、生体恒常性（ホメオスタシス）の維持に対する身体全体としての対応という観点から解説を行っていく。				
授業の到達目標				
到達目標1：ヒトの生理機能について理解する。 到達目標2：ヒトの身体は様々な器官系の統合により調節されていることを理解する。 到達目標3：将来医療従事者として必要とされる基礎知識を習得する。				
授業計画				
回	内容			
1	後期ガイダンス，消化吸収①			
2	消化吸収②			
3	生殖			
4	平滑筋の収縮，骨			
5	神経細胞の興奮			
6	興奮の伝導			
7	興奮の伝達			
8	中枢神経系			
9	高次神経機能			
10	姿勢と運動の調節			
11	骨格筋の収縮			
12	感覚概論，視覚			
13	特殊感覚			
14	体性感覚，内臓感覚			
15	後期まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
生理学テキスト 第9版	大地陸男		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生理学Ⅲ		講義	酒巻 直美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
理学療法において、運動に対する生理反応を理解することは極めて重要である。本講義では、解剖学ⅠⅡ、生理学ⅠⅡで学んだ内容を基礎として、運動に対する生理反応を中心に学習を行う。特に循環系、呼吸系、代謝系における生理反応、神経系、筋活動の基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 解剖学ⅠⅡ、生理学ⅠⅡで学んでいる基礎的な内容を説明することができる。 2. 運動における循環系、呼吸系、代謝系の生理反応、神経系、筋活動を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	運動と循環系(1) 循環系基礎			
2	運動と循環系(2) 運動と循環反応			
3	運動と循環系(3) 運動と循環反応			
4	運動と呼吸系(1) 呼吸系基礎			
5	運動と呼吸系(2) 運動と呼吸応答			
6	運動と代謝			
7	運動と代謝 体温調節			
8	運動と循環系、呼吸系、代謝系 解説			
9	運動と神経系(1) 神経系基礎			
10	運動と神経系(2)			
11	運動と筋活動(1) 運動と骨格筋・筋収縮のメカニズム			
12	運動と筋活動(2) 運動単位・筋収縮の種類と張力曲線			
13	運動と筋活動(3) 運動とエネルギー代謝			
14	運動と神経系、筋活動 解説			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	85%			
レポート・課題	10%	課題の実施内容、および提出状況（提出期限・方法の厳守）		
小テスト				
平常点	5%	授業態度（忘れ物・居眠り含む）・取り組む姿勢を総合的に評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	随時資料を配布する（ファイルしておくこと）。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
生理学テキスト	大地陸男		文光堂	
自由記載	解剖学ⅠⅡ、生理学ⅠⅡの教科書や配布資料にて復習しながら受講すること。			
備考				
解剖学ⅠⅡ資料（解剖学講義ノート）、生理学ⅠⅡ資料を持参する（単元毎に指示する）。				

科目名		授業形態	担当教員名	
統計学		講義	堀越 圭子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
1. 統計学を学ぶ意味を知る。 2. なぜ統計学が必要であるかを知る。				
授業の到達目標				
データを使って何がわかるかを具体的に述べる。				
授業計画				
回	内容			
1	統計の基礎			
2	データの尺度の種類・代表値・散布度			
3	正規分布			
4	相関と回帰			
5	検定・推定について			
6	差の検定・母比率の検定・相関の検定			
7	対応あり、なしの検定			
8	検定の練習問題			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	授業内容の総理解力の評価。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	必要に応じてプリントを配布する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハビリテーション統計学	石川朗・種村留美・対馬栄輝・木村雅彦		中山書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
内科学 I		講義	坂東 恵美子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本講義では、内科の主要な疾患について理解することを目的とする。具体的には、器官別に正常の構造・機能に関する知識を再度整理するとともに、主要疾患の病因および病態についての基本的知識を学習する。				
授業の到達目標				
疾患の病因・病態について基本的知識を理解し説明できるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	総論：内科学について			
2	細胞・腫瘍（1）：人体の構成と細胞に関する組織と生理学を含めた正常と異常の差異について			
3	細胞・腫瘍（2）：人体の構成と細胞に関する組織と生理学を含めた正常と異常の差異について			
4	骨格・筋肉：骨格と筋肉に関する基本的な解剖学的・生理学的事項の確認と代表的な疾患について			
5	神経疾患（1）：神経細胞・組織に関する基本的な解剖学的・生理学的事項の確認			
6	神経疾患（2）感覚器疾患：代表的な神経疾患および感覚器の基本的な解剖学的・生理学的事項の確認			
7	血液疾患（1）血液・体液に関する基本的事項			
8	血液疾患（2）血液系の代表的な疾患について			
9	免疫疾患（1）免疫に関する基本的事項			
10	免疫疾患（2）免疫反応による疾患について			
11	循環器系疾患（1）：心臓に関する基本的な解剖学的・生理学的事項の確認			
12	循環器系疾患（2）：心臓に関する代表的な疾患			
13	循環器系疾患（3）：血管に関する基本的な解剖学的・生理学的事項の確認			
14	循環器系疾患（4）：血管に関する代表的な疾患			
15	症候学、まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	理学療法士国家試験の過去10年間の問題を参考にして出題する。なお、国試過去問については、講義内で配布する。		
レポート・課題				
小テスト	20%	数回実施する。各疾患に関連する解剖生理学の範囲から出題する。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
【副読本として】疾患とつながる解剖生理図鑑	グロー	永岡書店		
自由記載	適宜資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なるほどなっとく！ 内科学 第3版	浅野嘉延	南山堂		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版	前田真治・上月正博・飯山準一	医学書院		
自由記載				
備考				
講義の順番は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
病理学概論		講義	荒木 金隆	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
病理学とは病気の原因やその成り立ちを科学的に理解する学問です。本授業は病気の成り立ちを幾つかの 카테고リーに分類して講義を行います。人間の生理機能との関連において病気の本質を知り、病気を来す病因や病態について、また病気相互の関連についての概要を理解できるようになることを目的とします。				
授業の到達目標				
1. 様々な病気で共通する病理学的変化を理解することができる。 2. 代謝異常、循環障害、免疫、炎症、腫瘍について概要を理解することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	病因論：内因 外因 及び内因の中で特に内分泌疾患の概要			
2	先天異常疾患：染色体 遺伝子の異常 環境要因			
3	先天異常疾患各論：神経系及び筋肉系			
4	傷害と適応及び修復：退行性病変及び進行性病変と組織の修復			
5	代謝異常(1)各論を含む 蛋白質 脂質 糖質代謝異常の概念と関連する疾患・老化			
6	代謝異常(2) カルシウム 銅 鉄 ビリルビンの代謝異常・内分泌異常			
7	循環障害(1) 充血 うっ血 虚血 出血 浮腫			
8	循環障害(2)各論を含む 血栓症 塞栓症 梗塞 虚血性疾患の概要			
9	循環障害(3) 高血圧 肺高血圧 側副循環(門脈圧亢進症) ショック			
10	免疫1：免疫の概念及びその成立について			
11	炎症：炎症の定義 炎症に關与する細胞 急性と慢性炎症の比較と病態			
12	免疫2：アレルギー性組織障害 自己免疫疾患(含む膠原病) 免疫不全 拒絶反応を含む			
13	感染症概要：病気の外因としての生物学的要因			
14	腫瘍総論：良性と悪性 発生母地と分化度			
15	腫瘍各論：各部位の腫瘍 特に脳腫瘍			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 病理学 第5版	梶原博毅	医学書院		
自由記載	講義資料を配付する。授業はPCを持参するのでプロジェクターとHDMI接続コードを用意してください。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
カラーアトラス 人体 解剖と機能	横地千仞	医学書院		
クエスチョン・バンクOT/PT国試解説2025共通問題	医療情報科学研究所	メディックスメディア		
PT・OT 基礎から学ぶ病理学ノート	中島雅美	医歯薬出版		
自由記載				
備考				
基礎医学と臨床との繋がりを修得している学年ではないが、将来のため長い時間をかけての知識習得を意識して学習されることを希望する。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
物理学		講義	堀越 圭子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
必要最小限の基本物理学を修得する。				
授業の到達目標				
1. 力のつりあい、物体の運動について説明できる。 2. 人体の平衡や安定性について、力学の概念を用いて説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	力学 力と運動①			
2	力学 力と運動②			
3	力学 てことモーメント①			
4	力学 てことモーメント②			
5	仕事と力学的エネルギー			
6	熱力学 エネルギー保存の法則			
7	波 波の性質 音波 光波①			
8	波 波の性質 音波 光波②			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	授業内容の総理解力の評価。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	20%	講義への取り組み態度の評価。		
その他				
自由記載	必要に応じてプリントを配布する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自然科学の基礎としての物理学	原康夫 著		学術図書出版社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育 I		実技・講義	田中 靖人	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
様々なスポーツ種目の実践を通し、スポーツの楽しさを味わったり、クラスメートとの親睦を図れることを目指したい。 また、スポーツの必要性や安全面を理解し実践に活かせる態度を養成することや、健康とスポーツに関連するトピックについて講義を通して、スポーツへの興味や関心を高めさせたい。 本科目は「初級パラスポーツ指導員」資格取得に必要なため、講義を通じ資格取得に興味を持ってもらいたい。				
授業の到達目標				
スポーツをすることの意義を知り身体を動かすことの楽しさを味わうこと、スポーツに関わるニュース等について、興味関心を深めること、を目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	講義：スポーツ活動における我が国の現状			
2	実技：ニュースポーツ 1-1 (アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等)			
3	実技：ニュースポーツ 1-2			
4	実技：球技 1-1 (バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等)			
5	実技：球技 1-2			
6	実技：球技 1-3			
7	実技：球技 2-1 (バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等)			
8	実技：球技 2-2			
9	実技：球技 2-3			
10	実技：ニュースポーツ 2-1 (アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等)			
11	実技：ニュースポーツ 2-2			
12	実技：ニュースポーツ 2-3			
13	講義：初級パラスポーツ指導員 資格対応講義 1 (障がい者スポーツの意義と理念)			
14	講義：初級パラスポーツ指導員 資格対応講義 2 (コミュニケーションスキルの基礎)			
15	講義：初級パラスポーツ指導員 資格対応講義 3 (安全管理)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	進度や講義内容によっては、レポートに置き換えることがある。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載	参考文献は定めないが、必要に応じて指示することがある。			
備考				
実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外し、貴重品類は盗難防止のためグラウンドや講堂には持ってこないこと。 けがや病気等で実技ができない場合は報告・相談すること。 天候や進度、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。				

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育Ⅱ		実技・講義	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>「保健体育Ⅰ」に続き、生涯にわたってスポーツを継続できる知識や、興味関心を深めることを目的とする。実技では、簡便な親しみやすかつ、今までに行ったことのない種目を紹介したい。講義では前期同様、スポーツが健康にかかわることについて理解を深めたい。パラスポーツ分野は、スポーツ指導を念頭においた実践的知識を伝えたい。</p>				
授業の到達目標				
生涯スポーツの意義を知り、身体を動かすことの重要性を知ること、スポーツに関わるニュース等について、興味関心を深めることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	講義：健康づくりのために必要なもの			
2	実技：ニュースポーツ（フライングディスク、インディアカ、ドッジビー 等）1－1			
3	実技：ニュースポーツ1－2			
4	実技：ニュースポーツ1－3			
5	実技：ニュースポーツ1－4			
6	実技：ニュースポーツ1－5			
7	講義：減量について考える1			
8	実技：ニュースポーツ2－1 または 球技（保健体育Ⅰ参照）3－1			
9	実技：ニュースポーツ2－2 または 球技3－2			
10	実技：ニュースポーツ2－3 または 球技3－3			
11	実技：ニュースポーツ2－4 または 球技3－4			
12	講義：減量について考える2			
13	講義：初級パラスポーツ指導員 資格対応講義4（スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質）			
14	講義：初級パラスポーツ指導員 資格対応講義5（全国障害者スポーツ大会の概要）			
15	講義：初級パラスポーツ指導員 資格対応講義6（障がい者スポーツに関する諸施策）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	進度や講義内容によっては、レポートに置き換えることがある。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載	参考文献は定めないが必要に応じて指示することがある。			
備考				
<p>実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外し、貴重品類は盗難防止のためグラウンドや講堂には持ってこないこと。けがや病気等で実技ができない場合は報告・相談すること。天候や進度、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。</p>				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法概論 I		講義	鮫島 一雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>本講義は皆さんが目標としている理学療法士になるための海図のようなものです。この科目の目的は理学療法および理学療法士とは何なのかを知りさらに理解し、自分自身の理想とする理学療法・理学療法士像を考えることができるようになることです。授業では、理学療法の概略を説明し、これから学んでいく科目を具体的に説明します。しかし船を動かすのは皆さんです。各自の自主性が大切です。</p>				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・医学用語を読むことができる ・理学療法の専門用語を知る ・理学療法士の法律と関連法規を理解する ・理学療法士の現状を知る ・理学療法士の資質面の重要性を知る ・理学療法業務を知る ・基礎医学の必要性を知る ・臨床医学の必要性を知る ・個人情報保護、コンプライアンスについて理解する ・理学療法教育を理解する 				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 基本用語1-5			
2	PTOT法1 医療法、定義 基本用語6-10			
3	PTOT法2 医師の指示、医師法 基本用語11-20			
4	PTOT法3 名称独占、業務独占 基本用語21-30			
5	PTOT法4 国家試験、免許、開業権 基本用語31-40			
6	PTOT法5 登録理学療法士 基本用語41-50			
7	PTOT法6 秘密遵守、医療行為 基本用語51-60			
8	PTOT法7 理学療法の職域、職能 基本用語61-70			
9	各病期の理学療法の意義、目的 基本用語71-80			
10	理学療法とリハビリテーション 基本用語81-90			
11	医療倫理と理学療法倫理 基本用語91-100			
12	PTOT法と関連職種の資格法との関係			
13	コンプライアンス (法令遵守) とは			
14	理学療法および理学療法士の現状と課題			
15	理学療法教育、医療職に必要な資質 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	試験内容は、小テストに準じる。		
レポート・課題		提出状況。		
小テスト		授業中に11回実施。		
平常点		授業参加状況等。		
その他				
自由記載	課題・小テストで70点以上の場合、筆記試験を免除する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
理学療法概論テキスト 第4版	監修 細田多穂		南江堂	
理学療法概論 I II 32期生資料	担当教員作成分			
自由記載	中学・高校等で使用した国語辞典・漢和辞典・英和辞典又は電子辞書を授業中使用する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法特論 I		演習	前川 加奈・福林 秀幸	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>学生生活において理学療法士としての基本的資質の向上を目指す。体験や学習を通して理学療法士の仕事内容や在り方を認識する。学習方法を学び、科目学習の知識の定着を図る。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 体験や学習を通して理学療法士の仕事を理解し、理学療法士に必要な資質面の向上を図る。 2. 学習の方法を学び、科目学習・演習に活かすことができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	学生生活オリエンテーション①			
2	学生生活オリエンテーション②			
3	学生生活オリエンテーション③			
4	学生生活オリエンテーション④			
5	科目学習・演習①			
6	科目学習・演習②			
7	2年生と合同授業：患者さまの気持ちを考える			
8	障害体験オリエンテーション			
9	障害体験			
10	科目学習・演習③			
11	科目学習・演習④			
12	科目学習・演習⑤			
13	実習オリエンテーション			
14	実習オリエンテーション			
15	前期の振り返り・まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	40%	課題、感想文、その他提出物の提出状況と内容を評価する。提出期限を厳守すること。		
小テスト				
平常点	60%	授業に取り組む姿勢・態度を総合的に評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
科目学習・演習では必要な教科書や資料を持参すること。				
自由記載	適宜資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法特論Ⅱ		演習	前川 加奈・福林 秀幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>学生生活において理学療法士としての基本的資質の向上を目指す。 他者と交流を図り課題解決能力やコミュニケーション能力を高める。 学習・演習を通して知識の再認識をする。 学生生活を円滑に行うための連絡事項を伝える。</p>				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な接遇・マナーを理解し、実践できる。 2. 他者と協力し課題解決をすることができる。 3. 勉強の方法を学び、日々の学習・演習に活かすことができる。 				
授業計画				
回	内容			
1	学生生活オリエンテーション①科目別学習			
2	学生生活オリエンテーション②科目別学習			
3	学生生活オリエンテーション③科目別学習			
4	IPE①			
5	IPE②			
6	IPE③			
7	IPE④			
8	IPE⑤			
9	IPE⑥			
10	IPE⑦			
11	IPE⑧			
12	施設見学体験実習オリエンテーション①			
13	施設見学体験実習オリエンテーション②			
14	施設見学体験実習オリエンテーション③			
15	施設見学体験実習オリエンテーション④ 1年生後期の振り返りと2学年に向けて			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	15%	課題、感想文、その他提出物の提出状況と内容を評価する。		
小テスト	15%	小テストを複数回実施する。		
平常点	70%	授業へ取り組む姿勢、態度、準備物、忘れ物等を総合的に評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	適宜資料を配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
<p>実習の日程調整等により内容が前後する場合があります。</p>				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法評価学 I		演習・講義	谷 和真	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
理学療法を行うための検査・測定について学び、実技を通して技術の修得をすることが目的となる。解剖学、運動学の知識を基に骨指標の触診、形態測定、関節可動域測定の方法を正しく実施できるように身に付ける。				
授業の到達目標				
1. 骨指標を理解し、触診の実施ができる。 2. 形態測定法を理解し、実施できる。 3. 関節可動域測定を理解し、実施できる。 4. 一定の時間内に評価を終了し、記録し、まとめることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	骨指標の理解と触診			
2	形態測定：四肢長			
3	形態測定：四肢長			
4	形態測定：周径			
5	形態測定：周径 まとめ			
6	実技テスト①			
7	関節可動域測定：上肢測定①			
8	関節可動域測定：上肢測定②			
9	関節可動域測定：上肢測定③			
10	関節可動域測定：下肢測定①			
11	関節可動域測定：下肢測定②			
12	関節可動域測定：下肢測定③			
13	関節可動域測定：体幹測定①			
14	関節可動域測定：体幹測定②、まとめ			
15	実技テスト②			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	20%			
レポート・課題				
小テスト	20%	定期的の小テストを実施します		
平常点				
その他	60%	実技試験		
自由記載	小テスト、筆記試験、実技テストの割合は上記の通りとし60%以上で合格とする。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 編	医学書院		
運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢 改訂第2版	林典雄 著	メジカルビュー社		
運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹 改訂第2版	林典雄 著	メジカルビュー社		
自由記載	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系第4版を各自、必要に応じて使用し理解を深めること。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
理学療法評価学 第6版補訂版	松澤正 他	金原出版株式会社		
臨床理学療法評価法 臨床で即役に立つ理学療法評価法のすべて 第2版	鈴木俊明 監修	アイペック		
自由記載				
備考				
Tシャツ・ハーフパンツなど動きやすい服装で授業に参加すること。小テストは授業内に実施する。授業の進行により、予定された講義・演習内容を変更することがある。 授業時間外を有効に活用し練習を行って技術を習得すること。				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法評価学Ⅱ		演習・講義	福林 秀幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>理学療法士にとって必要な検査項目の中に徒手筋力テスト（MMT）がある。前期に学んだ筋・骨格系の知識を基に筋力の状態を評価する技術と筋力低下をしている関連要因を疾患の画像も含めて説明し、適切に評価できる検査技術の習得を目指す。また、徒手のみではなく測定機器を使用した筋力測定方法も紹介する。1年次後期のカリキュラムへ組み込むことで、実技を充実させることにより早期技術習得、実技練習時間の確保を図る。</p>				
授業の到達目標				
<p>基本的な徒手筋力検査法や検査を実施するに当たっての注意事項を学び、検査対象者の筋力を測ることにおいて、正しい検査結果を導き出すことができるようになる。 検査結果から、筋力低下の要因を考えることができるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	MMTの概要 理論			
2	筋力検査の目的 筋の触診の方法			
3	上肢① 肩関節（腱板損傷US画像）			
4	上肢② 肩関節 肩甲帯			
5	上肢③ 肩甲帯 肘関節			
6	上肢④ 手関節 手指			
7	下肢① 股関節（股関節周囲筋US画像）			
8	下肢② 股関節 膝関節（膝周囲筋US画像）			
9	下肢③ 足関節（下腿周囲筋US画像）			
10	下肢④ 足関節 足趾（足底腱膜炎 アキレス腱炎 カルシウム沈着 画像）			
11	体幹① 頭頸部			
12	体幹② 胸腰椎（筋・筋膜性腰痛）			
13	顔面 ハンドヘルドダイナモメーター			
14	筋力検査結果の表し方と意味 粗大筋力 握力			
15	実技テスト			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	40%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	60%	実技試験		
自由記載	再試験に関しては、実技試験のみ。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 編	医学書院		
新・徒手筋力検査法 原著第10版	Helen J. Hislop 他著	協同医書出版社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法評価学Ⅲ		演習・講義	小林 正明	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
理学療法を行うにあたり日々の病態変化を把握する事は重要である。 本科目では理学療法評価の意義、主に呼吸・循環器系のフィジカルアセスメント・測定技法について学修する。 各種検査データの解釈や酸塩基平衡について学修する。				
授業の到達目標				
1. バイタルサイン(呼吸、脈拍、呼吸数など)が確認できる 2. 医療面接のポイントを理解でき、説明できる 3. 呼吸循環器系疾患に対する基本的な評価方法について説明、実施することができる 4. 血液データや呼吸機能検査の結果を解釈できる				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション、評価の意義			
2	問診、バイタルチェックの意義、運動中止基準			
3	体温・脈拍測定			
4	血圧測定の実技①			
5	血圧測定の実技②			
6	血圧測定の実技テスト			
7	循環器疾患の概要とフィジカルアセスメント			
8	心臓の解剖学的位置・心音聴診・心電図の基礎			
9	心電図の基礎・運動耐容能・運動負荷試験			
10	呼吸器疾患の概要とフィジカルアセスメント			
11	体表と肺の位置関係について			
12	呼吸数の計測・打診の実施			
13	打診・聴診(呼吸器系)の実施			
14	呼吸機能検査(スパイログラム、フローボリューム曲線について)の見方			
15	血液ガスデータ、酸塩基平衡の見方			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	30%	実技試験(血圧測定)		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハビリテーション運動生理学	玉木彰・解良武士		メジカルビュー社	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
倫理学		講義	東 昌紀	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
最先端の医療技術が、現代社会に対して、これまでは考えられなかった倫理的問題を引き起こしている。それを自分自身の問題として引き受け、多角的に考察する力を身に付けることを目的とする。講義では受講生が自ら議論を深められるような論理的な展開の雛形を提示する。				
授業の到達目標				
倫理的問題をいくつかの観点から立論する能力を身に付けることができる。その結果自分自身の考えを相対化することができるようになる。価値の多様性に気付くことによって人間への尊敬を深めることになる。単位認定のレポートは授業の目標達成度を測るものである。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 生命倫理学の誕生と意味			
2	倫理学的問題を論じる2つの観点・生命倫理の4つの原則			
3	生と死			
4	死と脳死			
5	脳死と臓器移植			
6	日本における臓器移植			
7	功利主義、義務論の展開			
8	生殖技術			
9	遺伝子技術			
10	人工妊娠中絶 日本における法的根拠			
11	人工妊娠中絶 母性と胎児の生存権			
12	人間とは何か 医療システムと生存権			
13	人間とは何か 生存権の範囲			
14	安楽死 医療の側から見られた			
15	安楽死 患者の側から見られた			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	ガイダンスで示した順序に従って倫理的問題が多角的な観点から論じられていることを測る。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
生命倫理学入門	今井道夫	産業図書		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床実習 I		実習	坂東 恵美子・福林 秀幸・前川 加奈・小林 正明 谷 和真・小堀 博史・堂脇 ゆかり・酒巻 直美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
45 時間 (1 単位)		回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
1. リハビリテーションに関わる病院や施設を見学し、理学療法士としての役割や仕事を理解する。 2. 施設の利用者様や障害のある方と接し、よりよい人間関係の構築を図る。				
授業の到達目標				
1. リハビリテーションに関わる施設を見学し、理学療法士の仕事・役割を理解する。 2. 多職種との連携について説明することができる。 3. 実習生として清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度をとることができる。 4. 理学療法の対象となる患者さま、利用者さまと共感的態度で接し、良い人間関係を構築することができる。 5. 理学療法士になるためにどのような勉強が必要かを考え、今後の勉学への意欲を高める。				
授業計画				
回	内容			
	オリエンテーション			
	急性期病院見学実習			
	回復期病院見学実習			
	介護老人保健施設見学実習			
	有料老人ホーム見学実習			
	身障・知的障害、就労支援施設見学実習			
	療育センター見学実習			
	家庭介護リハビリ研修センター（兵庫県立リハビリテーションセンター内）見学実習			
	施設見学体験実習			
	振り返り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習内容、各実習での課題への取り組み・提出等 総合的に評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
新型コロナウイルス感染症の影響により病院・施設見学実習については施設・病院から講師として来ていただき代替で行う場合がある。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床心理学		講義	大原 亜由美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
臨床心理学の様々な分野を概観し基礎知識を身につけることを目的とする。また、将来的に携わる対人支援の分野で臨床心理の基礎知識が応用できるよう授業を進めていく。				
授業の到達目標				
・臨床心理、発達心理を説明できる。 ・臨床心理検査法を説明できる。 ・心理療法・カウンセリングについて説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	精神分析			
3	分析心理学			
4	人間性心理学			
5	行動心理学			
6	日本の心理療法			
7	発達心理学(1) 乳幼児期			
8	発達心理学(2) 児童期以降			
9	心理検査(1)			
10	心理検査(2)			
11	心理検査(3)			
12	心理療法と対人支援(1) 医療分野			
13	心理療法と対人支援(2) 教育分野			
14	心理療法と対人援助(3) 福祉分野			
15	まとめと振り返り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	臨床心理学の基礎的知識の習得を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト	30%	毎回の授業の理解をもとに評価する。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
よくわかる心理学	無藤隆 他		ミネルヴァ書房	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
スポーツ障害理学療法学		講義・演習	中山 伸治	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>スポーツ活動は、幼少期の心身機能の向上、中高年の健康維持・増進、QOL向上、トップアスリートの記録更新・勝利など様々な目的で行われている。スポーツ活動で効果や結果を出すためにはトレーニングレベルの向上が必須であるが、向上すればするほど、障害・外傷のリスクに逆に非常に高くなり、スポーツ活動を継続できなくなる選手や愛好家が多い。</p> <p>本講義では、前半にスポーツ障害・外傷の原因とメカニズム、一般的なケア（ストレッチング、アイシング、テーピング）等について、後半は上肢、体幹、下肢の代表的なスポーツ障害・外傷の発生機序、病態を学習する。</p>				
授業の到達目標				
スポーツ障害のリハビリテーションの知識と技術を習得する。				
授業計画				
回	内容			
1	スポーツ障害・外傷概論			
2	ストレッチング演習			
3	アイシング講義			
4	アイシング演習			
5	上肢のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション（肩関節①）			
6	上肢のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション（肩関節②）			
7	上肢のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション（肘関節）			
8	体幹のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション			
9	下肢のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション（膝関節①）			
10	下肢のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション（膝関節②）			
11	下肢のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション（膝関節③）			
12	下肢のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション（膝関節④）			
13	下肢のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション（下腿・足関節①）			
14	下肢のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション（下腿・足関節②）			
15	下肢のスポーツ障害・外傷のリハビリテーション（下腿・足関節③）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
改訂版 スポーツ外傷・障害に対する術後のリハビリテーション 改訂第3版	園部俊晴 他	運動と医学の出版社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
リハビリテーション医学		講義	坂東 恵美子・酒巻 直美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
リハビリテーション医学の対象は、障害を持つ人及び障害を生じる可能性のある人々である。そのような対象者に共通する医学的事項について知り、理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床医学とリハビリテーション医学の違いを説明できる ・リハビリテーション診療の概要を説明できる ・患者の体に入浴している管について列挙できる ・リスク管理の必要性を認識する ・運動発達検査を説明できる ・痙縮・固縮、褥瘡、浮腫、熱傷等リハビリテーションの対象となる疾患・障害とそのリハビリテーションについて述べる事ができる 				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 臨床医学とリハビリテーション医学の差異			
2	リハビリテーション医療の3タイプ 4つの医療機能役割 リハビリテーション医学関係略語			
3	リハビリテーション診療①			
4	リハビリテーション診療②、記録について (SOAP演習)			
5	カテーテル総論・各論			
6	リスクマネジメント1:ベッド周辺のコードについて			
7	リスクマネジメント2:リハビリテーションの中止基準、他			
8	姿勢反射、発達検査各論 演習(反射、GMFM、GMFCS、その他) 【酒巻】			
9	痙縮・固縮の治療と理学療法			
10	末梢循環障害と浮腫			
11	浮腫の理学療法			
12	褥瘡と理学療法			
13	熱傷とその理学療法			
14	知っておきたい疾患・障害とリハビリテーション①			
15	知っておきたい疾患・障害とリハビリテーション② まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	40%			
レポート・課題	60%	不定期で数回提出する課題		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載	適宜資料を配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
最新リハビリテーション医学 第3版	安保雅博・上月正博他 編	医歯薬出版社		
Crosslink basic リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学	上月正博・高橋仁美 編	メジカルビュー社		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
一般臨床医学 I		講義	澤田 勝寛・林田 健・坂東 恵美子・酒巻 直美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
リハビリテーション分野では多岐にわたる疾患について幅広く診ていくことが必要であり、臨床医学とは診断の学びとも言える。この講義では、以下①～③を目的とする：①医療従事者にとって必要な心得や救急医学、リスクマネジメントについての知識を身に付ける。②リハビリテーションと関連する疾患とその情報収集について学ぶ。③診断と治療が同時に進行する救急医療の現場で求められる応急処置や対応を理解する。				
授業の到達目標				
医療全般に関わる広い視野を持つ。救急医学、リスクマネジメントの重要性、また様々な疾患を学び説明する。文献抄読を経験し、内容を説明する。ロールプレイを通して、疾患を抱える対象者との対応・問診を実践することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション、学習のすすめ方、文献抄読①			
2	AED	(林田)		
3	BLS	(林田)		
4	救急医療	(林田)		
5	文献抄読②	様々な疾患①：皮膚疾患		
6	ロールプレイ	疾患の理解～対象者対応の実践①		
7	ロールプレイ	疾患の理解～対象者対応の実践②		
8	ロールプレイ	疾患の理解～対象者対応の実践③		
9	診断学入門	(澤田)		
10	インフォームドコンセント、がん告知	(澤田)		
11	救急医療、リスクマネジメント	(澤田)		
12	医の倫理	(澤田)		
13	がんのリハビリテーション①			
14	がんのリハビリテーション②			
15	様々な疾患②：婦人科・産科疾患 まとめ (含国家試験対策)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	25%	澤田先生担当範囲		
レポート・課題	65%	20%林田先生担当範囲、45%その他の範囲		
小テスト				
平常点	10%	講義への参加態度で評価を行う。積極的な参加を望みます。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
一般臨床医学Ⅱ		講義	水島 健太郎・末安 朋雄・岩井 克磨・野沢井 隆・郡司嶋 一輝 林田 健・山本 雅美・淡路 大致・三村 明美・菊森 清美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
リハビリテーション分野では多岐にわたる疾患について幅広く診ていくことが必要であり、臨床医学とは診断の学びともいえる。この講義では、診断や評価に必要な検査の基礎と専門的な治療について、様々な専門職種の講義を受け、幅広い知識の習得に努めることを目的とする。				
授業の到達目標				
診断の手段としての超音波検査、X線、CT、MRIなどの画像評価の基礎を学び説明できる。 また、人工透析器・人工呼吸器の知識、視機能の評価と治療、嚥下や認知機能の評価と治療、精神科作業療法、介護予防（口腔）などについて学び説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	レントゲンとCTの基礎（1）画像の原理、画像の見方			
2	レントゲンとCTの基礎（2）疾患別の画像解説			
3	レントゲンとCTの基礎（3）まとめと解説			
4	MRIの基礎（1）MRIの原理、MRI画像の種類と特徴			
5	MRIの基礎（2）MRI画像の見方、疾患別の画像解説			
6	超音波画像①			
7	超音波画像②			
8	超音波画像③			
9	超音波画像④			
10	人工透析器について			
11	人工呼吸器について			
12	視覚・視野について			
13	嚥下障害・治療について			
14	精神科作業療法について			
15	介護予防（口腔）について			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	テーマごとに課題を提出する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
解剖学・生理学をしっかり復習しておくこと				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動器系理学療法 I		講義・演習	児島 章	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
各運動器疾患の特徴・症状・画像を学んだうえで、理学療法士としてできる評価・治療を考えられるよう講義をすすめていく。				
授業の到達目標				
医学的知識の裏付けを基に、骨関節疾患に対する障害像の把握と障害発生要因を理解する。その上で、理学療法の評価を、実習を通し出来るだけ実践的に学び、疾患に対する問題点の想起が出来ることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	概論			
2	骨折(1)			
3	骨折(2)			
4	高齢者の骨折(1)			
5	高齢者の骨折(2)			
6	高齢者の骨折(3)			
7	高齢者に伴う合併症(1)			
8	高齢者に伴う合併症(2)			
9	変形性関節症(1)			
10	変形性関節症(2)			
11	変形性関節症(3)			
12	R A (1)			
13	R A (2)			
14	R A (3)			
15	模擬患者			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	整形外科疾患の病態や治療が理解できているかを評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
ここがポイント！整形外科疾患の理学療法 第3版	富士武史 監修		金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
機能解剖学的触診技術 上肢	青木隆明 監修		メジカルビュー社	
機能解剖学的触診技術 下肢	青木隆明 監修		メジカルビュー社	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動器系理学療法学Ⅱ		講義・演習	児島 章	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
各骨関節疾患の特徴・症状を学んだうえで、理学療法士としてできる評価・治療を考えられるよう講義をすすめていく。				
授業の到達目標				
医学的知識の裏付けを基に、骨関節疾患に対する障害像の把握と障害発生要因を理解する。その上で、理学療法の評価を、実習を通し出来るだけ実践的に学び、疾患に対する問題点の想起が出来ることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	膝の靭帯損傷(1)			
2	膝の靭帯損傷(2)			
3	膝の靭帯損傷(3)			
4	腰痛について(1)			
5	腰痛について(2)			
6	腰痛について(3)			
7	腰痛について(4)			
8	頸椎と頸髄疾患について(1)			
9	頸椎と頸髄疾患について(2)			
10	頸椎と頸髄疾患について(3)			
11	肩関節疾患について(1)			
12	肩関節疾患について(2)			
13	肩関節疾患について(3)			
14	肩関節疾患について(4)			
15	模擬患者			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	整形外科疾患の病態や治療が理解できているかを評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
ここがポイント！整形外科疾患の理学療法 3版	富士武史 監修	金原出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
機能解剖学的触診技術 上肢	青木隆明 監修	メジカルビュー社		
機能解剖学的触診技術 下肢	青木隆明 監修	メジカルビュー社		
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動療法学 I		演習・講義	福林 秀幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
理学療法士の治療技術としての基本となる関節可動域運動や筋力増強など、各種の運動療法の仕組みや方法を学び、各疾患に対しての身体症状や問題のある状態に対して、リスクを考慮しながら身体機能の改善するための運動療法の技術を知り習得する。				
授業の到達目標				
筋、関節、姿勢異常、持久力、感覚障害など症状・障害の原理を理解し、治療における根拠を持った運動療法プログラムの立案ができることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	運動療法の基礎・リスク管理			
2	コンディショニングのための手段について			
3	関節可動域制限に対する運動療法 (1)			
4	関節可動域制限に対する運動療法 (2)			
5	関節可動域制限に対する運動療法 演習			
6	筋機能障害に対する運動療法 (1)			
7	筋機能障害に対する運動療法 (2)			
8	筋機能障害に対する運動療法 演習 小テスト 1回目			
9	持久力			
10	基本動作能力・歩行能力再獲得のための運動療法 (1)			
11	基本動作能力・歩行能力再獲得のための運動療法 (2)			
12	基本動作能力・歩行能力再獲得のための運動療法 演習			
13	協調運動障害（運動失調とバランス機能障害）に対する運動療法			
14	感覚障害に対する運動療法			
15	バイオフィードバック 小テスト2回目			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載	筆記試験と小テストを合わせて総合評価する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動療法学	石川朗 他		中山書店	
運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版	市橋則明		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動療法学Ⅱ		演習・講義	小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
高齢化、高度医療の発展や施策の展開が図られる保健・医療・福祉領域において、理学療法士に求められる役割や知識について理解することを目的とし、予防理学療法、産業理学療法について授業を通して、基本となる考え方や評価とアプローチの知見を学習する。				
授業の到達目標				
予防理学療法、産業理学療法において、理学療法の活動分野・役割が理解ができる。環境やライフステージに伴う身体的変化の特性を学び、理学療法の介入における予防的観点、評価やアプローチについて理解ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	高齢期における予防理学療法① 考え方			
2	高齢期における予防理学療法② 転倒・骨折予防			
3	高齢期における予防理学療法③ 運動器障害の予防（ロコモティブシンドローム）			
4	高齢期における予防理学療法④ 運動器障害の予防（サルコペニア、フレイル）			
5	高齢期における予防理学療法⑤ 認知症予防			
6	高齢期における予防理学療法⑥ 廃用症候群の予防			
7	高齢期における予防理学療法⑦ 咀嚼、嚥下障害の予防			
8	高齢期における予防理学療法⑧ 排尿障害の予防			
9	壮年期における予防理学療法			
10	学童期における予防理学療法			
11	産業理学療法① 役割について			
12	産業理学療法② 筋骨格系、メンタルヘルス問題の予防			
13	災害時の理学療法			
14	予防理学療法の実践① 集団指導（実技）			
15	予防理学療法の実践② 集団指導（実技）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	10%	内容・形式については講義中に指示する。		
小テスト	80%	小テストは各単元の授業中で実施する。		
平常点	10%	講義への参加態度で評価を行う。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
予防と産業の理学療法	樋口由美 他編	南江堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
高齢者理学療法学	島田裕之 総編	医歯薬出版株式会社		
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 予防理学療法学	石川朗 総編	中山書店		
自由記載				
備考				
授業開始時に前回授業の小テストを実施するため、集中して受講、復習をすること。				

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎理学療法学演習Ⅱ		演習・講義	小林 正明・谷 和真・坂東 恵美子・小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
実習における理学療法評価・治療の実施を見据え、対象者との対応・問診、症例情報の整理、症例あるいはペーパーペーシエントを通しての統合と解釈の実験を経験し、その大切さを認識する。また実習における記録の方法を修得する。				
授業の到達目標				
1. 臨床実習の目的や課題内容が説明できる 2. 症例情報を整理して、症例の全体像が説明できる。 3. 理学療法評価、統合と解釈、治療の立案までの流れを経験し、調べたことも含めて、障害像について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	講義オリエンテーション、評価実習・長期実習とは(1)			
2	評価実習・長期実習とは(2)、患者情報の分類(1)			
3	患者情報の分類(2)			
4	ケーススタディ(関連施設の利用者様から学ぶ)オリエンテーション			
5	症例情報から考える仮説・検査項目の立案			
6	動作観察から考える仮説・検査項目の立案			
7	検査結果を整理しSOAPでの記録を学ぶ			
8	ケーススタディ 利用者様から学ぶ (関連施設での実習)(1)			
9	ケーススタディ 利用者様から学ぶ (関連施設での実習)(2)			
10	症例レポート・発表用レジュメについて ケーススタディ 症例に基づく学修(1)			
11	ケーススタディ 症例に基づく学修(2) 情報をICFで整理			
12	ケーススタディ 症例に基づく学修(3) 症例レポートの統合と解釈を学ぶ			
13	ケーススタディ 症例に基づく学修(4) 統合と解釈の例示、最終評価結果の提示			
14	ケーススタディ 症例に基づく学修(5) 症例レポートの考察を学ぶ(1) 発表用レジュメを学ぶ			
15	症例レポートの考察を学ぶ(2) ・ 臨床実習に向けたまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	40%	講義中に出される課題、レポートを評価する		
小テスト				
平常点	20%	講義やグループワークへの参加態度を評価する(自分から学ぶ姿勢が重要です)		
その他	40%	関連施設での実習へ取り組む姿勢や提出物を評価する(実習前後の準備や振り返りも含める)		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖		医学書院	
PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド	山口美和		医学書院	
自由記載				
備考				
これまでに学んだ疾患・理学療法評価・治療に関する知識も必要です。事前にアナウンスするので、必要と思う資料を各自準備すること。				

科目名		授業形態	担当教員名	
義肢学		講義	鮫島 一雄・密谷 彩子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
義肢装具の概要を理解し、臨床において対象者の障害、症状などとの関連を総合的に考えられるようにする。また、対象者に適合する義肢装具の選択やニーズを考えられる基礎を理解する。				
授業の到達目標				
・切断の原因を理解する・切断後の断端管理の手法を理解する・義足の種類と構造、適応を理解する・義手の種類と構造を理解する・義足のアライメント調整を説明できる・義足の適合判定チェックアウトを説明できる・切断者の異常歩行とその原因を理解する・スポーツ、最先端義肢を知る				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 義肢学総論 ビデオ鑑賞			
2	切断と離断、固有名詞の切断名、特殊な切断名 福祉用具			
3	切断者の疫学 義肢の種類			
4	義肢の分類 断端管理			
5	切断後のリハの流れ アライメント ソケットの役割			
6	大腿義足のソケット（3つのソケットと四辺形・坐骨収納型）			
7	膝継手、足継手 膝義足、サイム切断の長所短所			
8	下腿義足			
9	股離断・片側骨盤切除の義足構造 足部切断			
10	3つのアライメントチェックアウト			
11	カナダ式股義足のアライメント			
12	切断の評価、（義足装着後理学療法）			
13	上肢切断の評価と義手			
14	義肢最先端リハビリテーション、大腿・下腿義足のダイナミックアライメント1（密谷）			
15	下肢切断の機能障害と義足装着前・後理学療法 応用動作2（密谷）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
15レクチャーシリーズ理学療法テキスト義肢学第2版	石川朗 編	中山書店		
義肢学演習資料30期生	担当教員作成			
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
各自が必要と思う書籍・辞書				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
小児理学療法学		講義	橋本 栄二	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
正常発達を基にして、小児の運動機能発達障害を呈する代表的疾患についての講義を行う。代表的疾患として、脳性麻痺、重症心身障害児、二分脊椎、ダウン症、発達障害児、子どもの遺伝性疾患について、概念、障害像、異常発達、評価、および治療を知り、障害のある子どもについて理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 脳性麻痺の定義、分類、タイプ別発達、評価、治療について説明できる。 2. 二分脊椎、ダウン症の障害と治療について説明できる。 3. その他、運動発達遅滞、重症心身障害児について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	授業オリエンテーション 16章 療育について			
2	1～3章 運動発達、姿勢反射の発達、正常発達、認知・行動のメカニズム			
3	6章 脳性麻痺総論 定義・分類・原因			
4	7章 脳性麻痺① 痙直型四肢麻痺			
5	8章 脳性麻痺② 痙直型両麻痺			
6	9章 脳性麻痺③ 痙直型片麻痺			
7	10章 脳性麻痺④ アテトーゼ型			
8	11章 二分脊椎			
9	12章 発達障害児			
10	12章 ダウン症候群			
11	13章 子どもの遺伝性疾患			
12	14章 重症心身障害児（者）			
13	15章 子どもの呼吸障害 早産児・低出生体重児			
14	16章 運動発達障害の療育体系と療育指導			
15	その他 まとめ（脳性麻痺・二分脊椎・ダウン症候群）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	30%	講義範囲内で出題		
レポート・課題	60%	各疾患に対して、どのような特徴（課題）があるのかを説明できる。		
小テスト				
平常点	10%	授業態度、および課題の提出状況を併せて評価する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
シンプル理学療法学シリーズ小児理学療法学テキスト改訂第4版	細田多穂 監修	南江堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
最新理学療法講座小児理学療法学	新田収 編著	医歯薬出版		
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
神経内科学 I		講義	劉 兆権	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
概論及び各論を通して、神経内科学の基本概念及び基本知識を理解してもらうことを目的としています。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・局在診断を説明できる。 ・代表的疾患の原因、症状、治療法、予後を説明できる。 				
授業計画				
回	内容			
1	神経系解剖生理学 (1) 神経の分類と機能			
2	(2) 伝導路と反射			
3	神経系病態症候学 (1) 意識障害			
4	(2) 運動麻痺			
5	(3) 運動失調			
6	(4) 高次脳機能障害1 失語症、失認			
7	(5) 高次脳機能障害2 失行、記憶障害、認知症			
8	小テスト			
9	神経疾患各論 (1) 脳血管障害			
10	(2) 脳腫瘍			
11	(3) 錐体外路の変性疾患 パーキンソン病			
12	(4) 末梢神経疾患1 顔面神経麻痺、ギラン・バレー症候群			
13	(5) 末梢神経疾患2 しびれ、周期性四肢麻痺			
14	(6) 球麻痺と仮性球麻痺			
15	復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%	局在診断を説明でき、代表的疾患の発症機序、症状を理解できる点を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%	疑問点や不明点について、積極的に質問し、活発に論議することを評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 神経内科学 第6版	川平和美	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
神経内科学Ⅱ		講義	劉 兆権	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
概論及び各論を通して、神経内科学の基本概念及び基本知識を理解してもらうことを目的としています。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・局在診断を説明できる。 ・代表的疾患の原因・症状・治療法・予後を説明できる。 				
授業計画				
回	内容			
1	神経疾患各論（1）筋疾患1 筋ジストロフィー			
2	（2）筋疾患2 重症筋無力症			
3	（3）脱髄疾患 多発性硬化症			
4	（4）変性疾患 ALS			
5	（5）脊髄疾患			
6	（6）てんかん			
7	（7）感染性疾患			
8	小テスト			
9	神経外科領域関連知識			
10	神経疾患各論（8）中毒性疾患			
11	（9）平衡機能障害 症状及び検査			
12	神経疾患に多い合併症			
13	不思議な現象 サヴァン症候群、仮名と漢字			
14	復習1			
15	復習2			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%	局在診断を説明でき、代表的疾患の発症機序、症状を理解できる点を評価基準とする		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%	疑問点や不明点について、積極的に質問し、活発に論議することを評価する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 神経内科学 第5版	川平和美		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
整形外科学 I		講義	山川 亮・見川 隆三・松本 直也 三裏 菜緒花・金森 慎治	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
理学療法の対象疾患の中心をなす整形外科疾患の診断法や治療法の原則を理解できるようになることを目的とする。また、疾患における病態・症状を理解することで、整形外科疾患の理学療法との繋がりを自ら想像することができることを目的とする。				
授業の到達目標				
実践を念頭に、できるだけ整形外科臨床に即した内容を理解し、整形外科的な常識を身につけることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 診療の基本 【山川】			
2	主訴・主症状から想定すべき疾患、整形外科的現症の取り方とその捉え方 【松本】			
3	検査 (X線、CT、MRI) 【三裏】			
4	保存療法 (薬物療法、リハビリテーション) 【松本】			
5	手術療法 【見川】			
6	変形性関節症、ロコモティブシンドローム 【三裏】			
7	関節リウマチとその類縁疾患① 【松本】			
8	関節リウマチとその類縁疾患② 【松本】			
9	軟部組織・骨・関節の感染症、四肢循環障害と阻血壊死性疾患 (骨壊死) 【見川】			
10	先天性骨系統疾患、先天異常症候群、代謝性骨疾患 【山川】			
11	骨腫瘍、軟部腫瘍 【山川】			
12	整形外科的検査① 【金森】			
13	整形外科的検査② 【金森】			
14	整形外科的検査③ 【金森】			
15	整形外科的検査④ 【金森】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	担当講義割合から問題割合を出す。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準整形外科学 第15版	松野丈夫・中村利孝 総編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
整形外科科学Ⅱ		講義	山川 亮・見川 隆三・松本 直也・三裏 菜緒花 石川 正雄・峯 貴文・佐藤 伸明	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
整形外科科学Ⅰに引き続き、理学療法の対象疾患の中心をなす整形外科疾患の診断法や治療法の原則を理解できるようになることを目的とする。また、疾患における病態・症状を理解できることで、整形外科疾患における理学療法との繋がりを自ら想像できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
実践を念頭に、できる限り整形外科臨床に則した内容を理解し、整形外科的な常識を身につけることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	外傷総論 【松本】			
2	軟部組織損傷(筋・腱・靭帯損傷) 【見川】			
3	末梢神経損傷 【松本】			
4	骨折・脱臼① 【見川】			
5	骨折・脱臼② 【見川】			
6	股関節 【松本】			
7	膝関節 【見川】			
8	肘関節・手関節 【三裏】			
9	肩関節① 【峯】			
10	肩関節② 【峯】			
11	頸椎、胸郭 【佐藤】			
12	胸椎、腰椎 【佐藤】			
13	足関節と足 【石川】			
14	特殊な器具・器材を用いた手術法について① 【山川】			
15	特殊な器具・器材を用いた手術法について② 【山川】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	講義割合から問題割合を出す。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準整形外科学 第15版	井樋栄二・津村弘 監修	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生活環境学		講義・演習	前川 加奈	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
高齢者や障がい者の在宅環境をリハビリテーションの視点で理解することを目的とし、住環境整備、福祉用具について講義を行う。人間の活動と環境の相互作用を理解し、演習を交えながら高齢者や障がい者の生活支援のための生活環境評価、住環境整備の方法、福祉用具の活用について具体的理解を深める。				
授業の到達目標				
1. 住環境整備、福祉用具の基礎知識が理解できる 2. バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解できる 3. 生活環境整備の流れ、評価、基本的手段が説明できる 4. 福祉用具の種類、適応について説明できる 5. 生活環境の整備や福祉用具に関わる制度について説明できる				
授業計画				
回	内容			
1	生活環境学総論 住環境整備総論			
2	住環境整備の基本1			
3	住環境整備の基本2			
4	部屋・場所別環境整備の方法1			
5	部屋・場所別環境整備の方法2			
6	福祉用具総論（目的、支援の流れ、評価）			
7	福祉用具1			
8	福祉用具2			
9	福祉用具3（演習） 福祉用具の実際			
10	福祉用具4（演習） 福祉用具の実際			
11	住環境・福祉用具の実際1			
12	住環境・福祉用具の実際2			
13	地域環境のバリアフリー化、IT機器・ICTとリハビリテーション			
14	生活環境の整備・福祉用具に関わる制度			
15	生活環境学のまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点	5%	講義録提出		
その他	15%	課題・演習を複数回実施する。それらの発表・提出物・取り組む姿勢等を評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	随時資料配布			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学専門分野 日常生活活動・生活環境学 第6版	鶴見隆正・隆島研吾 編集		医学書院	
福祉住環境コーディネーター検定試験2級・3級公式テキスト	東京商工会議所（編）		東京商工会議所	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神医学		講義	淡路 大致	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>現代の疾病構造としても、精神疾患の理解は重要である。精神医学の対象は「こころ」あるいは「精神」であり、その領域は広い。 本講では、精神的な病気を理解するために必要な、精神症状学を中心とした基礎知識を身に付けることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 精神障害の成因と分類が説明できる。 2. 代表的な精神機能とその異常について説明できる。 3. 精神機能と各疾患のつながりについて説明できる。 4. 各疾患への適切な対応について説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	精神医学とは 精神障害の成因と精神発達			
2	精神機能の障害 意識 知覚			
3	精神機能の障害 感情 意志・欲動			
4	精神機能の障害 思考 自我			
5	統合失調症			
6	統合失調症			
7	気分障害			
8	神経症			
9	てんかん			
10	睡眠障害			
11	パーソナリティ障害			
12	精神作用物質			
13	精神作用物質			
14	発達障害			
15	精神科における治療 精神科医療と社会			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題				
小テスト	30%	全3回実施 5回目の授業はじめ(1-4) 10回目の授業はじめ(5-9) 15回目の授業はじめ(10-14)		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
こころの健康がみえる	医療情報科学研究所	メディックメディア		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準精神医学 第9版	水野雅文 ほか	医学書院		
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
装具学		講義	谷 和真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>装具の概要を理解し、臨床において対象者の障害、症状などとの関連を捉えられるようにする。また、対象者への装着を踏まえ、その適合や治療プログラムを検討する等につながるように、装具の選択することやニーズを考えることができる基礎を身につける。</p>				
授業の到達目標				
<p>・装具の目的を説明できる。・装具の基本的な構造や機能について説明できる。・装具の種類、適応疾患、機能について説明できる。・下肢装具の適合性を確認するために、チェックアウト項目を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	装具学総論			
2	下肢装具の部品とその機能			
3	短下肢装具			
4	長下肢装具・股装具・膝装具			
5	靴型装具			
6	下肢装具のチェックアウト			
7	体幹装具、側弯症装具			
8	上肢装具			
9	疾患別装具の処方：脳卒中片麻痺			
10	疾患別装具の処方：整形外科疾患			
11	疾患別装具の処方：関節リウマチ			
12	疾患別装具の処方：対麻痺・小児			
13	演習（装具カンファレンス）1			
14	演習（装具カンファレンス）2			
15	装具学まとめ（国家試験対策を含む）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載	授業の中で一度小テストを実施します。範囲は授業の中で説明します。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学 第2版	石川朗 編		中山書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
義肢装具学テキスト 改訂第4版	細田多穂 他		南江堂	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
地域理学療法学総論		講義・演習	小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
現在の保険・医療・福祉の精度や動向の変化は著しく、地域リハビリテーションの地域理学療法分野においても大きく変化している。本講義では諸制度や関連機関との多職種連携を学び、地域理学療法分野に必要な知識の習得と、主に生活期の理学療法士の役割について理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域リハビリテーションと地域理学療法にかかわる知識を習得する。 2. 様々な制度を理解し、諸制度下での理学療法について説明できる。 3. 生活期の理学療法について説明できる。 				
授業計画				
回	内容			
1	地域リハビリテーション総論			
2	障害と生活の理解			
3	地域理学療法の視点① 生活期の捉え方			
4	地域理学療法の視点② 生活期のリハビリテーション			
5	地域理学療法の視点③ 生活期におけるニード			
6	地域理学療法と制度① 介護保険			
7	地域理学療法と制度② その他の制度（障害者総合支援法）			
8	地域理学療法と制度③ 地域包括ケアシステム			
9	地域理学療法と制度④ 介護サービス1			
10	地域理学療法と制度⑤ 介護サービス2（施設サービス）			
11	地域理学療法の実際① 生活課題			
12	地域理学療法の実際② ケアプラン			
13	地域理学療法の実際③ サービス担当者会議			
14	地域理学療法の実際④ 終末期の考え方			
15	地域理学療法の実際⑤ アドバンス・ケア・プランニング			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点	30%	授業態度（ワークや発表での積極性を評価する）と発表		
その他	10%	講義録の提出		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	随時プリントを配布する。必ず講義録をファイルにまとめること。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
理学療法学テキスト 地域理学療法学	浅川康吉		メジカルビュー社	
地域リハビリテーション原論	太田仁史		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				
<ul style="list-style-type: none"> ・グループでのワークを行います。積極的に参加してください。 ・状況によって進度など変更する場合があります。 				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
中枢神経系理学療法学 I		講義	前川 加奈・谷 和真	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
中枢神経の機能と構造ならびに中枢神経障害の病態、症状を理解する。特に脳血管障害については分類、病態、症状、評価、理学療法について学習する。				
授業の到達目標				
1. 中枢神経障害における運動障害、感覚障害についてメカニズムを説明できる。 2. 脳血管障害の分類、病態、症状について理解する。 3. 脳血管障害における評価、理学療法について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	中枢神経の機能と構造 1			
2	中枢神経の機能と構造 2			
3	中枢神経障害総論 1			
4	中枢神経障害総論 2			
5	中枢神経障害総論 3			
6	中枢神経障害総論 4			
7	中枢神経障害総論 5			
8	脳血管障害総論			
9	脳出血			
10	脳梗塞			
11	くも膜下出血			
12	脳血管障害の理学療法 1			
13	脳血管障害の理学療法 2			
14	脳血管障害の理学療法 3			
15	頭部外傷			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
病気がみえる脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 神経内科学 第6版	川平和美	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
*解剖学演習Ⅲの配布資料、理学療法評価学Ⅴの資料を常に持参すること				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
中枢神経系理学療法学Ⅱ		講義・演習	前川 加奈・谷 和真・金森 慎治	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
脳血管障害における病態や症状を理解するため、中枢神経系の機能と構造について知識の整理と修得を行う。適切な理学療法の検査・測定、リスク管理、治療立案までの一連の流れを知り、修得することを目的とする。				
授業の到達目標				
中枢神経系の構造と機能についての基礎知識を整理し、運動と感覚の関係性や伴う障害について説明ができるようになる。また、疾患から生じる機能障害および能力障害の評価方法や、治療までの一連の流れを理解できるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	脳血管障害の症状と理学療法①			
2	脳血管障害の症状と理学療法②			
3	脳血管障害の症状と理学療法③			
4	ケーススタディ①			
5	ケーススタディ②			
6	ケーススタディ③			
7	ケーススタディ④			
8	ケーススタディ⑤			
9	ケーススタディ⑥			
10	ケーススタディ⑦			
11	ケーススタディ⑧			
12	ケーススタディ⑨			
13	リハビリテーションの実際1（症例を通して）			
14	リハビリテーションの実際2（症例を通して）			
15	リハビリテーションの実際3（症例を通して）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
平常点				
その他	10%	課題・講義録の提出		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト	豊田輝 編		羊土社	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
中枢神経系理学療法学Ⅲ		講義	坂東 恵美子・姫野 広美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
神経筋疾患における病態と症状を理解し、理学療法の評価や治療に必要な知識と技術を知り、修得できるようになることを目的とする。また、特異的な障害像を理解し、個々の症状に応じた評価や理学療法について学ぶ。				
授業の到達目標				
中枢神経系の構造と機能解剖や神経生理の基礎知識を使用し、運動制御について説明できるようになる。各疾患の病態を理解し、必要な機能障害および能力障害の評価を列挙することができる。基本的な治療について知り、その目的を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	運動失調：病態と症状			(坂東)
2	運動失調：評価			(坂東)
3	運動失調：理学療法			(坂東)
4	パーキンソン病：病態と症状			(坂東)
5	パーキンソン病：評価			(坂東)
6	パーキンソン病：理学療法			(坂東)
7	筋萎縮性側索硬化症：病態と症状、評価、理学療法			(坂東)
8	多発性硬化症：病態と症状、評価、理学療法			(坂東)
9	ギランバレー症候群など：基本的な症候と、治療上の注意点について理解し、その知識を治療に生かすことができる			(姫野)
10	重症筋無力症：基本的な症候と、治療上の注意点について理解し、その知識を治療に生かすことができる			(姫野)
11	多発筋炎、皮膚筋炎：基本的な症候と、治療上の注意点について理解し、その知識を治療に生かすことができる			(姫野)
12	神経変性疾患：代表的な神経変性疾患についての基本的な症候と治療上の注意点について理解し、その知識を治療に生かすことができる			(姫野)
13	筋ジストロフィー①：基本的な症候と、治療上の注意点について理解し、その知識を治療に生かすことができる			(姫野)
14	筋ジストロフィー②：基本的な症候と、治療上の注意点について理解し、その知識を治療に生かすことができる			(姫野)
15	脳腫瘍：病態、症状、評価、理学療法			まとめ (坂東)
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	坂東6割、姫野4割の割合で作成する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ第2版	石川朗 他編		中山書店	
標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版	吉尾雅春 森岡周 編		医学書院	
最新理学療法学講座 中枢神経理学療法学	山口智史 山田実 編著		医歯薬出版	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
中枢神経系理学療法学Ⅳ		講義・演習	窪津 秀政	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>脊髄損傷の病態を理解し、評価方法の理解、手技を獲得し、レベル判定が可能になるようにする。基本動作練習や応用動作練習を通じADLが自立していく過程を講義、実技を通じ教授する。評価からのゴール設定を立てられるようにし、理学療法プログラム立案および施行できるよう指導する。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 脊髄損傷の病態・評価方法について説明することができる。 2. 損傷レベル別の理学療法・日常生活自立度についても関係づけ模倣することができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	脊髄損傷について（疫学、病理、病態、合併症など）			
2	脊髄損傷の評価			
3	頸髄損傷の理学療法（急性期から回復期にかけて）			
4	胸腰髄損傷の理学療法（急性期から回復期にかけて）			
5	（実習）脊髄損傷者を迎えての実技			
6	不全型脊髄損傷の理学療法			
7	（実習）不全損傷者を迎えての実技			
8	ADLと住宅改修			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	国家試験レベルの理解がある 脊髄損傷者のADLが説明できる		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	講義資料を配布			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
内科学Ⅱ		講義	谷山 紘太郎	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
将来、医療業務の一翼を担う者として、病気・病態に関する基本的知識を有することは必須である。本科目では、器官別に正常の構造・機能に関する知識を再度整理するとともに、異常生体に至る病因および異常生体の病態についての基本的知識を系統的・網羅的に提供する。				
授業の到達目標				
疾患の病因・病態について基本的知識を理解し説明できるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	代謝性疾患（1） 代謝に関する基本事項（ビタミン、酵素を含む）			
2	代謝性疾患（2） 代謝に関連する疾患			
3	腎・泌尿器系疾患（1） 腎・泌尿器に関する基本事項			
4	腎・泌尿器系疾患（2） 腎臓に関連する疾患			
5	腎・泌尿器系疾患（3） 泌尿器に関連する疾患			
6	呼吸器系疾患（1）：呼吸器臓器に関する基本的な解剖学的・生理学的事項			
7	呼吸器系疾患（2）：呼吸器系の代表的な疾患（感染症）			
8	呼吸器系疾患（3）：呼吸器系の代表的な疾患（機能的・器質的疾患）			
9	消化器疾患：上部・下部消化管の基本的事項			
10	消化管疾患：上部・下部消化管の疾患			
11	肝・胆・膵疾患（肝・胆・膵の構造と機能、肝・胆・膵に関連する疾患）			
12	内分泌系疾患（1） 内分泌に関する基本事項			
13	内分泌系疾患（2） 内分泌に関連する疾患			
14	感染症：感染症総論および各論（病原微生物による各感染症について）			
15	加齢医学：加齢による生体の変化及び主要な老年疾患			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	理学療法士国家試験の過去10年間の問題を参考にして出題する。なお、過去問の資料については、解答及び解説付きのプリントを前もって配布する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	講義資料プリント冊子及び過去10年間国家試験問題解説プリント配布。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	プリント資料冊子配布。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版	前田真治・上月正博・飯山準一		医学書院	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
内部障害理学療法学 I		講義	酒巻 直美・井ノ元 宏希	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
運動における循環系、代謝系の反応を復習し、内部障害について理解する。代表的な疾患である循環器疾患、糖尿病、慢性腎臓病等の病態、症状、障害を理解し、それぞれの包括的リハビリテーション、理学療法について学習する。				
授業の到達目標				
1. 循環系、代謝系の生理的反応を説明できる。2. 代表的な疾患の病態、症状、障害を説明できる。3. 代表的疾患の包括的リハビリテーション、理学療法について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	内部障害総論			
2	運動処方総論			
3	不整脈と心電図			
4	心臓リハビリテーション総論		(井ノ元)	
5	心臓リハビリテーション：運動負荷試験(CPX)		(井ノ元)	
6	心臓リハビリテーション：疾患別(1) 心不全		(井ノ元)	
7	心臓リハビリテーション：疾患別(2) 虚血性心疾患		(井ノ元)	
8	心臓リハビリテーション：疾患別(3) 不整脈・閉塞性動脈疾患		(井ノ元)	
9	心臓リハビリテーション：疾患別(4) 心臓血管外科術後		(井ノ元)	
10	糖尿病の理学療法(1)			
11	糖尿病の理学療法(2)			
12	糖尿病の理学療法(3)			
13	腎臓リハビリテーション(1)			
14	腎臓リハビリテーション(2)			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%			
レポート・課題	10%	小テスト、課題を実施する。課題提出の場合、形式や提出期限を守らない場合は減点する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
最新理学療法学講座 内部障害理学療法学	高橋哲也 編著		医歯薬出版	
自由記載	随時資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第4版	細田多穂 監修		南江堂	
自由記載				
備考				
解剖学、生理学、内科学の内容を復習して授業に臨むこと。				

科目名		授業形態	担当教員名	
内部障害理学療法学Ⅱ		講義・演習	小林 正明・中村 由果理	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
呼吸に関わる解剖学、運動学、生理学的な知識を学び実技を通して知識を整理する。 呼吸器障害に対する評価方法と評価の流れを学ぶ。代表的な呼吸器障害の病態を理解し、基本的な理学療法が実施できる。吸引の基本的な技術を習得する。				
授業の到達目標				
・内部障害領域における理学療法の意義を説明できる ・呼吸器系の解剖・構造を説明できる ・胸郭と肺の位置関係を説明できる ・画像所見、血液データや生理検査データを説明できる ・呼吸器障害の病態について説明できる ・呼吸理学療法の基本手技（コンディショニング、排痰法、吸引）ができる				
授業計画				
回	内容			
1	呼吸リハビリテーションの目的・内部障害領域での理学療法士の役割と現状			
2	呼吸器系の解剖学・運動学・体表と肺の位置関係			
3	呼吸器系の生理学、血液ガス、生理検査データの解釈			
4	呼吸不全の病態と呼吸器疾患			
5	呼吸理学療法のための評価 医療面接とフィジカルアセスメント(聴診・打診)			
6	呼吸器障害における運動能力テスト、画像読影の基本			
7	呼吸理学療法の基本手技（コンディショニング）			
8	呼吸理学療法の基本手技（排痰法）			
9	呼吸理学療法の基本手技（呼吸困難改善のための手技）			
10	呼吸理学療法の基本手技（運動療法）			
11	酸素療法と呼吸理学療法			
12	慢性呼吸不全に対する理学療法			
13	急性呼吸不全に対する理学療法・人工呼吸療法・吸引			
14	吸引に関する方法と実際			
15	在宅での理学療法、まとめ（評価から治療の整理）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学 呼吸 第3版	石川朗・玉木彰 編		中山書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
内部障害理学療法学テキスト（シンプル理学療法学シリーズ）	細田多穂 監修		南江堂	
自由記載				
備考				
積極的な姿勢で臨むこと。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
日常生活活動学 I		講義	堂脇 ゆかり	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
リハビリテーション医学の中でADLは大きな領域をしめる。リハビリテーションチームの一員である理学療法士として、活動の視点から障害を捉えていく。日常生活活動学 I ではADL総論として概念、障害との関連、評価法などについて学習する。また、車いす、杖などADLを支援する機器についても学習する。				
授業の到達目標				
1. ADLの概念を理解する。 2. ICFを習熟する。 3. ADL評価の意義・項目・方法を理解し実施できるようになる。 4. 車いす、各種杖についての知識を深める。				
授業計画				
回	内容			
1	ADL概念と定義			
2	ADLとQOL			
3	ICF① 構造			
4	ICF② 特徴			
5	ADL評価の目的・意義			
6	代表的な評価法① B.I.			
7	代表的な評価法② FIM			
8	代表的な評価法③ FIM			
9	代表的な評価法④ その他の評価法			
10	杖① 種類			
11	杖② 車いす①			
12	車いす②			
13	車いす③			
14	車いす④			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	10%	ノート・課題の提出 期限の遅れや内容に不備があれば減点する		
小テスト				
平常点	10%	授業への参加態度など		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版	鶴見隆正・隆島研吾 編集		医学書院	
実践リハビリテーションシリーズ脳卒中の機能評価SIASとFIM(基礎編) 1版	千野直一 他編著		金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 編集		医学書院	
理学療法概論テキスト 第4版	監修 細田多穂		南江堂	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
日常生活活動学Ⅱ		講義・演習	堂脇 ゆかり・谷 和真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
リハビリテーション医学の中で日常生活活動（ADL）は大きな領域をしめる。リハビリテーションチームの一員である理学療法士として、活動の視点から障害を捉えていく。後期では、ADL各論として各疾患別のADLの特徴、指導について学習する。				
授業の到達目標				
1. 片麻痺患者のADLの特徴について説明できる。 2. 片麻痺患者の基本動作などの指導・介助法を実施できる。 3. RA患者のADLの特徴について説明できる。 4. RA患者の基本動作などの指導・介助法を実施できる。 5. 脊髄損傷のADLの特徴について説明できる。 6. 脊髄損傷の基本動作などの指導・介助法を実施できる。 7. その他の疾患のADLの特徴について説明できる。 8. その他の疾患の基本動作などの指導・介助法を実施できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ADL評価 セルフケアについて			
2	セルフケア 基本動作について			
3	基本動作、脊髄損傷のADL①特徴			
4	脊髄損傷のADL② 特徴と指導			
5	脊髄損傷のADL③ 演習			
6	RAのADL 特徴と指導			
7	視覚障害者のADL 特徴と演習			
8	人工股関節置換術・下肢切断のADL 特徴と指導			
9	呼吸器・循環器疾患、神経筋疾患のADL 特徴と指導			
10	片麻痺のADL① 特徴と指導			
11	片麻痺のADL② 演習			
12	片麻痺のADL③ 演習			
13	片麻痺のADL④ 演習			
14	実技テスト			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	10%	課題の提出		
小テスト				
平常点				
その他	20%	実技テスト		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学専門分野 日常生活活動・生活環境学	鶴見隆正・隆島研吾 編集	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
物理療法学 I		演習・講義	福林 秀幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
物理療法は物理学的な現象を治療に応用するものであり、基本的な物理学の知識は必須である。授業ではできるかぎり簡単にそれぞれの必要な物理学の知識について説明をし、その応用としての物理療法（温熱・寒冷・光線・水治・超音波）の基本的技術適応、禁忌、方法等を演習を交えながら行う。				
授業の到達目標				
物理療法の仕組みを理解し、症状に併せた治療方法を選択できるようになる。自ら機器を実際使用する事で実際の治療現場を意識することができるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	物理療法の基礎			
2	リスク管理			
3	物理療法を行うための触診			
4	温熱療法（1）伝導熱：ホットパック パラフィン浴			
5	温熱療法（1）演習 伝導熱：ホットパック パラフィン浴			
6	温熱療法（2）輻射熱：赤外線療法			
7	温熱療法（3）エネルギー変換熱：超短波療法 極超短波療法			
8	温熱療法（3）演習 赤外線療法 極超短波療法 小テスト 1回目			
9	光線療法 紫外線療法 レーザー療法			
10	光線療法 演習 紫外線療法 レーザー療法 ケーススタディ			
11	寒冷療法			
12	水治療法			
13	水治療法 演習 渦流浴			
14	前期のまとめ1			
15	前期のまとめ2 小テスト 2回目			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載	筆記試験と小テストを合わせて総合評価する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習 第2版	石川朗 他		中山書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
物理療法学Ⅱ		演習・講義	福林 秀幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>物理療法は物理学的な現象を治療に応用するものであり、基本的な物理学の知識は必須である。授業ではできるかぎり簡単にそれぞれの必要な物理学の知識について説明をし、その応用としての物理療法（電気・牽引・マッサージ）の基本的技術適応、禁忌、方法等を演習を交えながら行う。</p>				
授業の到達目標				
<p>物理療法の仕組みを理解し、症状に併せた治療方法を選択できるようになる。自ら機器を実際に使用する事で実際の治療現場を意識することができるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	超音波療法(1)			
2	超音波療法(2)			
3	超音波療法 演習			
4	電気刺激療法(1)			
5	電気刺激療法(2)			
6	電気刺激療法(3) 小テスト 1回目			
7	電気刺激療法(4)			
8	電気刺激療法 演習			
9	牽引療法			
10	牽引療法 演習			
11	マッサージ療法			
12	マッサージ療法 演習			
13	ケーススタディ(1)			
14	ケーススタディ(2)			
15	後期のまとめ 小テスト 2回目			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載	定期試験と小テストを合わせて総合評価し、60点以下を再試験とする。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習	石川朗 他	中山書店		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法概論Ⅱ		講義	鮫島 一雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>次年度の臨床実習を目前にして、今までの単なる知識の詰め込みだけでは、臨床実習への準備は不十分です。この授業では、臨床実習で必要となるPT学生としての資質・知識面および問題解決能力の向上が目的です。そのため、知識を記憶するだけでなく、自ら考えて問題解決を行う事が重要になります。1年次授業で学んだが忘れていた事や授業中に理解できなかった事項は必ず日々の復習で解決することが大切です。</p>				
授業の到達目標				
<p>・理学療法用語を理解する ・理学療法過程を理解する ・理学療法過程に沿って考えられる ・臨床推論を理解する ・ガイドライン、クリニカルパスを理解する ・SOAPを理解し使える ・電子カルテと紙カルテの違いを知る ・診療報酬制度の概略を理解する</p>				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 理学療法業務（理学療法士ができること）			
2	理学療法過程1(PDCA とEPDCAサイクル、クリニカルリーズニング)			
3	理学療法過程2（情報収集）			
4	理学療法過程3(患者の問題点の抽出)			
5	理学療法過程4(情報の解釈/統合と解釈)			
6	評価の視点			
7	ボトムアップとトップダウン			
8	主訴・要望・ニーズ・ホープと理学療法目標			
9	臨床推論			
10	ロートンモデル 社会保障 保険診療			
11	診療報酬 診療記録 診療記録の書き方 電子カルテと紙カルテ			
12	POSとPOMR SOAP			
13	エビデンス クリニカルパス ガイドライン			
14	SOAP演習			
15	授業まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	試験内容は、小テストに準じる。		
レポート・課題				
小テスト		授業中に4回実施する。		
平常点		授業参加状況等。		
その他				
自由記載	小テストで70点以上の場合は、筆記試験を免除する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
理学療法概論テキスト 第4版	細田多穂 監修		南江堂	
理学療法概論ⅠⅡ31期生資料（1年次配布分）	担当教員作成分			
理学療法概論Ⅱ31期生資料（2年次配布分）	担当教員作成分			
自由記載	中学・高校等で使用した国語辞典・漢和辞典・英和辞典又は電子辞書を授業中使用する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法特論Ⅲ		演習	小堀 博史・福林 秀幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において理学療法士としての基本的資質の向上を目指す。 ・国家試験に向けての基礎知識を確認する。 ・自己学習を通して知識の向上を図る。 ・他学年との合同授業を通して検査測定技術の向上を図る。 ・学生生活を円滑に行うための連絡事項を伝える。 				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・知識の整理、技術向上を図り日々の講義や臨床現場に活かすことができる。 ・学校生活を円滑に行うことができる。 				
授業計画				
回	内容			
1	学生生活オリエンテーション			
2	学生生活オリエンテーション			
3	連絡事項・科目学習・演習			
4	施設見学体験実習発表			
5	合同授業オリエンテーション			
6	1年生と合同授業：模擬患者を検査する			
7	連絡事項・合同授業後のワーク			
8	連絡事項・合同授業後のワーク			
9	連絡事項・科目学習・演習			
10	連絡事項・科目学習・演習			
11	連絡事項・科目学習・演習			
12	連絡事項・科目学習・演習			
13	連絡事項・科目学習・演習			
14	連絡事項・科目学習・演習			
15	連絡事項・科目学習・演習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	感想文など含む。		
小テスト				
平常点	70%	授業へ取り組む姿勢、態度、出席状況、提出物・忘れ物状況		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	適宜資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
状況によって進度は変更する場合があります。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法特論Ⅳ		演習	小堀 博史・福林 秀幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生生活において理学療法士としての基本的資質の向上を目指す。 ・ 臨床実習・国家試験に向けての知識・技術の向上を図る。 ・ 他学年との合同授業を通して検査測定技術の向上を図る。 ・ 学生生活を円滑に行うための連絡事項を伝える。 				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識の整理、技術向上を図り日々の講義や臨床現場に活かすことができる。 ・ 学校生活を円滑に行うことができる。 				
授業計画				
回	内容			
1	学生生活オリエンテーション①			
2	学生生活オリエンテーション②			
3	2年生前期の振り返り①			
4	2年生前期の振り返り②			
5	2年後期の自己目標を考える			
6	科目学習・演習①			
7	科目学習・演習②			
8	科目学習・演習③			
9	科目学習・演習④			
10	科目学習・演習⑤			
11	科目学習・演習⑥			
12	科目学習・演習⑦			
13	科目学習・演習⑧			
14	2年生後期の振り返り			
15	今後の自己目標を考える			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	講義で出題する課題内容、課題に取り組む姿勢		
小テスト				
平常点	70%	授業へ取り組む姿勢、態度		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載	適宜資料を配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
授業内での取り組みから3年生に向けて自己学習・自己研鑽に励むこと。				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法評価学Ⅳ		演習・講義	坂東 恵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>評価学では、理学療法を行うための検査・測定について学び、実技を通して技術の修得をすることが目的となる。本講義では、以下の項目について知り、各項目の神経学的機序についても理解する。</p> <p>1. 反射検査 2. 筋緊張検査 3. 協調運動機能検査 4. バランス検査</p>				
授業の到達目標				
<p>・各検査の意義が説明できる。・各検査の方法を理解し、実施できる。・各検査の結果を記録することができる。・反射のメカニズムや反射異常の病態とメカニズムについて説明できる。・筋緊張異常の病態とメカニズムについて説明できる。・協調運動機能、またその検査について説明できる。・平衡機能とそのメカニズム、またその検査について説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	講義オリエンテーション 反射検査① 反射の神経学的機序について			
2	反射検査② 反射検査概要 腱反射実技			
3	反射検査③ 腱反射実技			
4	反射検査④ 表在反射、病的反射			
5	反射検査⑤ 反射まとめ（実技復習）			
6	筋緊張検査① 筋緊張の神経学的機序について 筋緊張検査概要			
7	筋緊張検査② 筋緊張検査実技			
8	筋緊張検査③ 筋緊張検査実技、姿勢筋緊張について			
9	実技試験：反射検査			
10	協調運動機能検査① 協調運動とは 協調運動機能検査とは 協調機能検査に必要な基礎知識			
11	協調運動機能検査② 四肢に対する検査実技			
12	協調運動機能検査③ 体幹機能などを含む協調運動機能検査実技			
13	バランス検査① バランスとは バランスの基礎知識			
14	バランス検査② バランス検査の実際 1			
15	バランス検査③ バランス検査の実際 2 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	75%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	25%	実技試験		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
ベッドサイドの神経の診かた 第18版	田崎義明 他		南山堂	
標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 他		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法評価学Ⅴ		演習・講義	前川 加奈・今井 絵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
中枢神経障害の病態を理解し、感覚検査・片麻痺機能検査・脳神経の検査・高次脳機能障害の検査技術を修得することが目的である。実際の場面や障害像を想定した評価が行えるよう実技をできるだけ多く行う。それぞれの検査の意義や結果の解釈の仕方を基礎的知識と結びつけ、理解することを目指す。				
授業の到達目標				
1. 各検査における基礎知識を理解できる 2. 検査の目的、注意点、手順を正しく理解できる 3. 検査を実践する技能を身につける 4. 検査結果の記載方法と考察について理解する 5. 疾患と関連づけて考えることができる				
授業計画				
回	内容			
1	高次脳機能障害 概要・評価①基本概念、注意障害について			
2	高次脳機能障害 概要・評価②失行、失認について			
3	高次脳機能障害 概要・評価③記憶障害、失語症について			
4	感覚検査 感覚の種類や伝導路 検査の目的 注意点 手順			
5	感覚検査 表在感覚検査方法（実技） 深部感覚検査方法（実技）			
6	感覚検査 温冷覚検査方法（実技） その他の検査方法（実技）			
7	感覚検査 検査方法（実技）			
8	脳神経の検査 脳神経の機能 検査方法（実技）			
9	脳神経の検査 脳神経の機能 検査方法（実技）			
10	脳血管障害の評価			
11	片麻痺機能検査 検査方法（実技）			
12	片麻痺機能検査 検査方法（実技）			
13	片麻痺機能検査 検査方法（実技）			
14	実技テスト（感覚検査）			
15	実技テスト（片麻痺機能検査）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	（うち前川50%・今井20%）		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	30%	実技試験		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 岩井信彦 編		医学書院	
病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
ベッドサイドの神経の診かた 第18版	田崎義昭 斎藤佳雄		南山堂	
基礎運動学 第6版	中村隆一 斎藤宏		医歯薬出版	
自由記載				
備考				
*解剖学演習Ⅲ、中枢神経系理学療法学Ⅰの配布資料を常に持参すること				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法評価学VI		演習・講義	小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本講義では、理学療法士が行う理学療法評価や、その内部に含まれる検査測定として最もよく行われる「姿勢観察」「動作観察」を主に扱う。内容は理学療法評価の進め方や臨床推論による情報の捉え方、観察方法の基礎から実践、記録方法等が含まれる。講義を通じて自ら能動的に情報収集を図り、情報の取り扱い方を考え、理学療法評価を実践していく力を養うことを目的とする。				
授業の到達目標				
理学療法評価の概要を理解し、自ら理学療法評価の実践まで展開することができる。 各姿勢・動作における運動学的特徴を把握し、観察から記録までの一連の過程を自ら実践することができる。 観察結果からその成因を分析し、検査測定への繋がりを想起することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	評価総論①（理学療法評価 概要）			
2	評価総論②（理学療法評価の進め方・情報収集）			
3	評価総論③（理学療法評価 捉え方）			
4	姿勢観察・分析①（立位）			
5	姿勢観察・分析②（立位）			
6	姿勢観察・分析③（座位）			
7	姿勢観察・分析④（臥位・体圧分散）			
8	動作観察・分析①（立ち上がり）			
9	動作観察・分析②（立ち上がり）			
10	動作観察・分析③（起き上がり）			
11	動作観察・分析④（起き上がり）			
12	動作観察・分析⑤（歩行）			
13	動作分析・分析⑥（歩行）			
14	動作観察・分析⑦（歩行）			
15	評価総論④（臨床推論・まとめ）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%			
レポート・課題	40%	不定期で講義時間中・自宅学習にて記録物の作成を求められることがある。		
小テスト				
平常点	10%	講義への参加態度で評価を行う。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 岩井信彦	医学書院		
PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 第2版	畠中泰彦	羊土社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
解剖学・生理学・運動学に基づく動作分析	奈良勲	医歯薬出版株式会社		
症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作	隈元庸夫	ヒューマン・プレス		
動作のメカニズムがよくわかる 実践！動作分析 第2版	西守隆	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
備考				
臨床で求められる姿勢動作の基礎・観察法を学びます。積極的に参加すること。				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法臨床技能演習		演習	福林 秀幸・小堀 博史・小林 正明	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
臨床場面を想定し、症状と検査結果から動作への影響や問題点の列挙を行い、適切な治療項目の選択を行うことができるようになるために、Paper patientを用いてグループに分かれて学ぶ。 OSCEは今までに習得してきた各技術を評価実習、総合臨床実習前後に行うことになるのでOSCEの必要性を知り、実際に患者様に触れて実技を行い技術の向上を図るための準備を行う。				
授業の到達目標				
症状や検査結果から適切な問題点の列挙と治療項目の選択ができるようになる。 OSCE実施に向けて必要性を理解することと、現時点での自分自身の技術を認識し向上のための指標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション OSCEに必要な疾患について 運動器疾患①（事前学習）			
2	OSCEに必要な疾患について 運動器疾患①（発表） 運動器疾患②（事前学習）			
3	OSCEに必要な疾患について 運動器疾患②（発表） 中枢疾患①（事前学習）			
4	中枢疾患②（発表） OSCE概要説明 疾患における医療面接の進め方			
5	OSCE 実技①			
6	OSCE 実技②			
7	OSCE 実技③			
8	OSCE実技試験 1回目			
9	OSCE実技試験 1回目			
10	OSCE 実技④			
11	OSCE 実技⑤			
12	OSCE 実技⑥			
13	OSCE 実技⑦			
14	OSCE実技試験 2回目			
15	OSCE実技試験 2回目			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	2回の実技試験の合計にて判定		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	必要なものは授業中に配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版	才藤栄一 監修 金田嘉清 他編集		金原出版	
PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編	才藤栄一 監修 金田嘉清 他編集		金原出版	
自由記載				
備考				
実技試験の日程に関しては後期スケジュールをみて変更する可能性があります。（変更する場合は随時連絡します）				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床運動学		講義	福林 秀幸・小林 正明	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
理学療法の主な目的は、患者の基本的動作能力の回復である。臨床の場面では運動器系、神経・筋系、臓器系に由来する運動障害を対象に運動療法を手段として治療することが多い。従って理学療法士は人体の基本的な運動学に周知する事はもちろん、臨床の場面で見ると患者の異常な運動を運動学的な観点から見る必要がある。臨床運動学では様々な運動が遂行可能となるメカニズムや、主な疾患・障害の姿勢動作分析が理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 運動力学・生体力学の基礎知識と運動への繋がりが理解できる 2. 正常な姿勢動作の生体力学的メカニズムとその解釈が説明できる 3. 疾患特有の疾患・動作と病態・障害像との関係を理解できる 4. 運動技能を獲得するうえでの運動学習の理論的枠組みが理解できる 5. 異常な運動・反応を触診にて評価することができる				
授業計画				
回	内容			
1	臨床運動学 概論、骨・関節領域の臨床的捉え方①			
2	骨・関節領域の臨床的捉え方②			
3	筋・筋膜領域の臨床的捉え方①			
4	筋・筋膜領域の臨床的捉え方②			
5	筋・筋膜領域の臨床的捉え方③			
6	随意運動・不随意運動①			
7	随意運動・不随意運動②・運動学習			
8	姿勢（構成要素・制御メカニズム）			
9	姿勢の診かた			
10	姿勢（異常）			
11	基本動作の捉え方			
12	歩行（構成要素・制御メカニズム）			
13	歩行（神経機構）			
14	歩行の診かた			
15	歩行（異常・老年性）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 第2版	島中泰彦		羊土社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学	石川朗・種村留美 総編集		中山書店	
観察による歩行分析	kirsten Götz-Neumann		医学書院	
動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践	石井慎一郎 編著		MEDICAL VIEW	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床栄養学		講義	三好 真琴・前重 伯壮	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>リハビリテーションを受けている患者さんには低栄養の人が多という報告がある。栄養管理をしながら理学療法を実施しなければその効果はなく、ずさんな栄養管理で行えば逆に悪化してしまう可能性もある。本講義では栄養学に関する基礎的な知識を習得し、栄養と健康維持・増進、介護予防及びリハビリテーションとの関連を理解することを目指す。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 栄養を食品面と生体面の双方から説明することができる。 2. 栄養がリハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	生化学・栄養学に必要な基礎化学、栄養評価			
2	蛋白質とアミノ酸、酵素・ホルモン			
3	糖質、脂質			
4	ビタミン・ミネラル、消化と吸収			
5	主な病態の栄養管理、静脈・経腸栄養法、栄養と摂食嚥下			
6	褥瘡と栄養			
7	エネルギー代謝、運動と栄養			
8	リハビリテーションと栄養			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	身体内の物質の反応や栄養状態の知識について理解できているかを評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハベリック生化学・栄養学 第2版	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床実習Ⅱ		実習	坂東 恵美子・福林 秀幸・前川 加奈・小林 正明 谷 和真・小堀 博史・堂脇 ゆかり・酒巻 直美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
135 時間 (3 単位)		回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>評価実習(理学療法評価の一連の過程を理解・経験する実習) 患者さまの疾患・症状から適した情報・検査項目を挙げ、検査を見学・協同参加・実施する。各検査結果の関連を説明し、患者さまの抱える問題点を挙げ障害像を把握する。</p>				
授業の到達目標				
<p>1.適切な身だしなみ、共感的態度をもって、より良い人間関係が構築できる 2.対象者に対して医療人としての対応ができる 3.理学療法士の施設での位置づけ、業務内容が理解できる 4.検査項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由を説明できる 5.学生により実施されるべき評価項目(水準Ⅰ)を実践することができる 6.検査結果の関連性について説明できる 7.対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明できる</p>				
授業計画				
回	内容			
	実習前オリエンテーション			
	施設実習 1週目			
	施設実習 2週目			
	施設実習 3週目			
	実習後報告会			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習内容、実習後報告会など総合的に評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	実習のてびき配布			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
課題以外にも自分が知識不足、技能不足と思ったことは自己研鑽すること。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床薬学		講義	大石 美恵	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
理学療法の対象となる人は、薬物療法を受けていることが多い。この講義では、薬についての基礎的な知識を学ぶとともに、主な疾患に対する薬物治療について理解を深める。薬物の作用や副作用、注意点を理解し、理学療法に活かせる能力を身につけることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 薬の作用機序について説明できる。 2. 代表的な神経、筋作用薬、循環器治療薬、呼吸器治療薬について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	臨床薬理学総論1			
2	臨床薬理学総論2			
3	感染・炎症の制御と薬物療法			
4	神経疾患の薬物療法			
5	精神疾患の薬物療法			
6	循環器疾患の薬物療法			
7	疼痛の制御と薬物療法			
8	注意すべき頻用される薬物/まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	薬の基礎的な知識、主な疾患に対する薬物療法についての理解を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	予習・復習することを望みます。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 第2版	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 第7版	赤瀬智子 柳田俊彦		メディカ出版	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
疼痛理学療法学		講義・演習	松原 貴子・下 和弘・大賀 智史・服部 貴文	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
疼痛学の基礎ならびに疼痛の発生メカニズム、慢性疼痛の病態など疼痛の神経メカニズムについて学ぶ。また、疼痛の多面性を評価・治療するために、多角的かつ包括的なアセスメント法とリハビリテーション介入法（特に理学療法のなかでも、患者主体の運動療法）について習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 疼痛の基礎，病態，神経メカニズムについて説明することができる。 2. 疼痛の多面的アセスメント法について列挙することができる。 3. 疼痛のリハビリテーション介入法について説明することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	疼痛の疫学，定義・分類①			
2	疼痛の疫学，定義・分類②			
3	疼痛の神経生理学① 疼痛の伝達経路			
4	疼痛の神経生理学② 疼痛を抑制するシステム			
5	疼痛の神経生理学③ 疼痛の発生メカニズム			
6	急性痛とは			
7	慢性痛とは① 病態			
8	慢性痛とは② 神経メカニズム			
9	疼痛のアセスメント法① 評価の考え方			
10	疼痛のアセスメント法② 感覚評価、身体機能・活動評価			
11	疼痛のアセスメント法③ 情動・認知評価、社会的QOL評価			
12	疼痛のリハビリテーション介入法① リハビリテーションの有効性			
13	疼痛のリハビリテーション介入法② 運動療法(1) 運動による鎮痛			
14	疼痛のリハビリテーション介入法② 運動療法(2) 行動医学との組み合わせ			
15	疼痛のマネジメント			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	疼痛の基礎や神経メカニズムについて説明でき、評価や介入の方法を列挙できる点を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
ペインリハビリテーション入門	沖田実・松原貴子	三輪書店		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
臨床実習や卒後の実臨床で活用、実践できるように、具体例も示しながら講義するので、疼痛に対する正しい理学療法を習得してほしい。適宜、実習も交えて学習を行う予定である。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリア教育Ⅱ		講義・演習	酒巻 直美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
最終学年での課題は臨床実習・国家試験学習・就職活動が主である。本科目においては自己の振り返りを行い、より望ましいキャリアの実現をイメージし、それを踏まえて最大限に自己表現できる能力を身につける。そのうえで、自らが望む施設で理学療法士として活躍できるように就職活動に必要な知識や面接力を修得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 自己を客観的に振り返り、将来像を具体的にイメージすることができる。 2. 自分自身や自己の考えについて、履歴書に適切に表現できる。 3. 就職活動に必要な知識を学び、面接力を身につける。				
授業計画				
回	内容			
1	自己を見つめなおす（学生生活、学業の振り返り）・キャリアデザイン・就職の心構え			
2	履歴書の書き方(1)			
3	履歴書の書き方(2)			
4	就職試験の心構え			
5	面接取り組み(1)			
6	面接取り組み(2)			
7	履歴書・面接の実際			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	60%	提出物の内容・提出のルール順守について評価する。		
小テスト				
平常点	40%	自己の振り返りや課題に真摯に取り組んでいたかについて評価する（忘れ物、居眠りを含む）。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
就職の手引き2025	本校発行			
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
キャリア教育Ⅰ・理学療法管理学Ⅱ等での資料や課題を参照する（持参については指示する）。				

科目名		授業形態		担当教員名	
総合理学療法学演習 I		演習		坂東 恵美子・福林 秀幸・前川 加奈・小林 正明 谷 和真・小堀 博史・酒巻 直美・堂脇 ゆかり	
時間数 (単位数)		授業回数		年次	
90 時間 (3 単位)		45 回		3 年次	
開講時期					
前期					
授業の目的・概要					
最終学年において、来年2月の国家試験に向けこれまでの知識の再復習を行う。					
授業の到達目標					
理学療法基礎分野の知識の整理を行い、身体の機能や構造について説明できる。					
授業計画					
回	内容				
1	オリエンテーション①		31	基礎学習 (28)	
2	オリエンテーション②		32	基礎学習 (29)	
3	国家試験について		33	基礎学習 (30)	
4	基礎学習 (1)		34	基礎学習 (31)	
5	基礎学習 (2)		35	基礎学習 (32)	
6	基礎学習 (3)		36	基礎学習 (33)	
7	基礎学習 (4)		37	基礎学習 (34)	
8	基礎学習 (5)		38	基礎学習 (35)	
9	基礎学習 (6)		39	基礎学習 (36)	
10	基礎学習 (7)		40	基礎学習 (37)	
11	基礎学習 (8)		41	基礎学習 (38)	
12	基礎学習 (9)		42	基礎学習 (39)	
13	基礎学習 (10)		43	基礎学習 (40)	
14	基礎学習 (11)		44	総復習①	
15	基礎学習 (12)		45	総復習②	
16	基礎学習 (13)				
17	基礎学習 (14)				
18	基礎学習 (15)				
19	基礎学習 (16)				
20	基礎学習 (17)				
21	基礎学習 (18)				
22	基礎学習 (19)				
23	基礎学習 (20)				
24	基礎学習 (21)				
25	基礎学習 (22)				
26	基礎学習 (23)				
27	基礎学習 (24)				
28	基礎学習 (25)				
29	基礎学習 (26)				
30	基礎学習 (27)				

科目名
総合理学療法学演習 I

成績の評価方法と基準		
種別	割合	評価基準・その他備考
筆記試験		
レポート・課題		
小テスト		
平常点		
その他		
自由記載	随時行う課題の取り組みで評価する	
教科書		
書名	著者・編集者名	出版社名
自由記載		
参考文献		
書名	著者・編集者名	出版社名
自由記載		
備考		
各自、自主学習・自己研鑽に励むこと。		

科目名		授業形態	担当教員名	
総合理学療法学演習Ⅱ		講義・演習	坂東 恵美子・福林 秀幸・前川 加奈・小林 正明 谷 和真・小堀 博史・堂脇 ゆかり・酒巻 直美・田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
90 時間（3 単位）		45 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
国家試験に合格するために各分野の特別講義と演習を通して知識の再確認を行う。 障がい者スポーツの取り組みについて知る。				
授業の到達目標				
グループで学習・演習を行うことで、グループ全員が知識を共有する。国家試験に合格するためにするため理学療法基礎分野・専門分野の知識を獲得する。 障がい者スポーツについて理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	分野別特別講義（1）	31	専門基礎分野小テストと振り返り	
2	分野別特別講義（2）	32	グループ学習	
3	分野別特別講義（3）	33	グループ学習	
4	分野別特別講義（4）	34	グループ学習	
5	分野別特別講義（5）	35	グループ学習	
6	分野別特別講義（6）	36	グループ学習	
7	分野別特別講義（7）	37	グループ学習	
8	分野別特別講義（8）	38	グループ学習	
9	分野別特別講義（9）	39	グループ学習	
10	分野別特別講義（10）	40	グループ学習	
11	分野別特別講義（11）	41	グループ学習	
12	分野別特別講義（12）	42	グループ学習	
13	分野別特別講義（13）	43	グループ学習、障がい者スポーツについて	
14	分野別特別講義（14）	44	グループ学習、障がい者スポーツ実技	
15	分野別特別講義（15）	45	グループ学習、障がい者スポーツ実技	
16	分野別特別講義（16）			
17	分野別特別講義（17）			
18	分野別特別講義（18）			
19	分野別特別講義（19）			
20	分野別特別講義（20）			
21	グループ学習			
22	グループ学習			
23	グループ学習			
24	グループ学習			
25	グループ学習			
26	グループ学習			
27	グループ学習			
28	グループ学習			
29	グループ学習			
30	グループ学習			

科目名
総合理学療法学演習Ⅱ

成績の評価方法と基準		
種別	割合	評価基準・その他備考
筆記試験	100%	数回行い、平均して60点以上を合格とする。
レポート・課題		
小テスト		
平常点		
その他		
自由記載	再試験については開講学期のみとする。	
教科書		
書名	著者・編集者名	出版社名
国試の達人 運動解剖生理学編	理学療法科学会	株式会社 アイペック
国試の達人 臨床医学編	理学療法科学会	株式会社 アイペック
クエスチョンバンク 理学療法士 国家試験問題解説2026 専門問題	医療情報科学研究所	株式会社 メディックメディア
自由記載	適宜資料を配布する	
参考文献		
書名	著者・編集者名	出版社名
自由記載		
備考		

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
地域理学療法学各論		講義	小堀 博史・福林 加奈子・山本 克己・藤田 愛・大西 美緒・村上 隆太郎・小林 正明・谷 和真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
我が国が直面している最大の課題は少子高齢化である。社会の変化に伴い理学療法においても地域リハビリテーションに基づく地域理学療法のある方が問われている。本講義では、実際の地域リハビリテーション分野の臨床の講師による講義を行い、2年次に学習した地域理学療法学総論を基に、より深い知識の修得と、地域リハビリテーションの担い手としての理学療法士の役割をより理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 地域理学療法の各分野の特徴と理学療法士の役割を理解できる。 2. 高齢者や障害者の生活を深く知り、地域リハビリテーションチームの中の理学療法士の役割を理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	地域ケアセミナー			
2	地域ケアセミナー			
3	地域ケアセミナー			
4	行政における理学療法士の役割・意義について			
5	介護予防、地域包括ケアシステムについて			
6	介護老人福祉施設における理学療法(1)			
7	介護老人福祉施設における理学療法(2)			
8	地域リハビリテーションと起業、デイサービスについて(1)			
9	地域リハビリテーションと起業、デイサービスについて(2)			
10	訪問リハビリテーションについて(1)			
11	訪問リハビリテーションについて(2)			
12	在宅での高齢者の看護とリハビリテーション(1)			
13	在宅での高齢者の看護とリハビリテーション(2)			
14	障害者施策の中での理学療法士の役割(1)			
15	障害者施策の中での理学療法士の役割(2)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	80%	感想文・課題		
小テスト				
平常点	20%	受講態度（居眠り、忘れ物等の態度・取り組む姿勢 等）		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	随時資料を配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
状況や日程調整などにより内容が前後することがあります。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法研究論		講義	小林 正明	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法学研究を行うための方法を理解すること。 ・ 理学療法研究を实践する上で必要な研究倫理、研究の流れ、研究方法の基礎を理解すること ・ 研究に関連する国家試験問題を解くことができる 				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法における研究の意義、目的について説明できる ・ 研究倫理の基礎と基本的な統計用語、検定法を説明でき、研究論文を理解するための基礎を習得する ・ 国家試験問題に対応できる 				
授業計画				
回	内容			
1	研究の意義・EBM、EBPT			
2	医療倫理			
3	研究方法の分類、エビデンスレベル			
4	研究・統計分野の基礎用語・解説①			
5	研究・統計分野の基礎用語・解説②			
6	研究方法に適した統計手法の選定			
7	感度・特異度、陽性的中率、陰性的中率			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	50%			
小テスト	50%	講義中に小テストを実施する		
平常点				
その他				
自由記載	国家試験関連のテキストは毎回持参すること			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハビリテーション統計学 (15レクチャーシリーズ)	対馬榮輝		中山書店	
自由記載				
備考				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床実習Ⅲ		実習	坂東 恵美子・福林 秀幸・前川 加奈・小林 正明 谷 和真・小堀 博史・酒巻 直美・堂脇 ゆかり	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
315 時間 （ 7 単位）		回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
総合臨床実習（1回目） 1・2年生で学んだ理学療法専門基礎分野・理学療法専門分野の知識を生かし、臨床実習施設で対象者に実習指導者の指導・助言のもと基本的理学療法を实践する。また、リハビリテーションチームの一員として理学療法士としての役割や責任を理解し、多職種と連携していく大切さを認識する。				
授業の到達目標				
1. 対象者の病期・背景をふまえ障害像を把握しその理由について説明できる。 2. 対象者の治療目標および治療計画を立案し、その根拠について説明できる。 3. リスク管理を行いながら患者さまの治療を实践する。 4. 理学療法の治療効果を確認し、その内容について説明できる。 5. 多職種と関わり、チーム医療についての重要性を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
	臨床実習前評価 5時間			
	施設実習 1週目	280時間		
	施設実習 2週目			
	施設実習 3週目			
	施設実習 4週目			
	施設実習 5週目			
	施設実習 6週目			
	施設実習 7週目			
	学修時間	28時間		
	臨床実習後評価	2時間		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他		実習内容、臨床実習前後評価等総合的に評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	実習のてびき配布			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
実習前評価では非常勤講師に模擬患者役をお願いする。実習前に配布する手引きを熟読したうえで、実習に臨み真摯に取り組むこと。 課題以外にも自分が知識不足、技能不足と思ったことは自己研鑽すること。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床実習Ⅳ		実習	坂東 恵美子・福林 秀幸・前川 加奈・小林 正明 谷 和真・小堀 博史・堂脇 ゆかり・酒巻 直美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
315 時間（7 単位）		回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
総合臨床実習（2回目） 1回目の総合臨床実習での実践を生かし、臨床実習施設で対象者に実習指導者の指導・助言のもと基本的理学療法を実践する。また、リハビリテーションチームの一員として理学療法士としての役割や責任を理解し、多職種と連携していく大切さを認識する。				
授業の到達目標				
1. 対象者の病期・背景をふまえて障害像を把握しその理由について説明できる。 4. 理学療法の治療効果を確認し、その内容について説明できる。 2. 対象者の治療目標および治療計画を立案し、その根拠について説明できる。 5. 多職種と関わり、チーム医療についての重要性を説明できる。 3. リスク管理を行いながら患者さまの治療を実践する。				
授業計画				
回	内容			
	臨床実習前評価 5時間			
	施設実習 1週目	280時間		
	施設実習 2週目			
	施設実習 3週目			
	施設実習 4週目			
	施設実習 5週目			
	施設実習 6週目			
	施設実習 7週目			
	学修時間 28時間			
	臨床実習後評価 2時間			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習内容、臨床実習前後評価等総合的に評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
実習前に配布する手引きを熟読したうえで、実習に臨み真摯に取り組むこと。 課題以外にも自分が知識不足、技能不足と思ったことは自己研鑽すること。				

令和7年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床実習Ⅴ		実習	坂東 恵美子・福林 秀幸・前川 加奈・小林 正明 谷 和真・小堀 博史・酒巻 直美・堂脇 ゆかり	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
90 時間 （ 2 単位）		回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
地域リハビリテーション実習 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション施設において、地域で生活している利用者様の生活機能について理解し、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割と責任について理解する。また、地域包括ケアシステムに關与する關連専門職種の役割を理解する。				
授業の到達目標				
1. 地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割について説明できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける關連職種の役割を理解する。 3. 利用者さまの生活機能について理解する。 4. ケアプランの立案過程について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
	実習前オリエンテーション	1時間		
	施設実習 1週目	80時間		
	施設実習 2週目			
	学修	8時間		
	実習後報告会	1時間		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他		実習内容、実習後報告会等総合的に評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載	実習のてびき配布			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
実習前に配布する手引きを熟読したうえで、実習に臨み真摯に取り組むこと。 課題以外にも自分が知識不足、技能不足と思ったことは自己研鑽すること。				